

【コミュニケーション情報学科専門科目】

教育課程	7-1
専門科目の概要	7-2
コミュニケーション論入門	第1学年 7-5
ビジネス事情	第1学年 7-6
情報基礎	第1学年 7-7
ビジュアル情報基礎	第1学年 7-8
経営情報入門	第2学年 7-9
情報基礎演習	第2学年 7-10
ビジュアル情報演習	第2学年 7-11
コミュニケーション論	第2学年 7-12
ビジネス事情Ⅱ	第2学年 7-13
簿記入門	第3学年 7-14
経営入門	第3学年 7-15
経営数学入門	第3学年 7-16
経営情報演習	第3学年 7-17
経営情報システム基礎	第3学年 7-18
情報処理基礎	第3学年 7-19
情報処理演習	第3学年 7-20
言語コミュニケーション論	第3学年 7-21
ビジネス事情演習	第3学年 7-22
セミナー	第4学年 7-23
パブリック・スピーキングⅠ	第4学年 7-24
ビジネスライティングⅠ	第4学年 7-25
第2外国語Ⅰ	第4学年 7-26
第2外国語Ⅱ	第4学年 7-27
情報コミュニケーション	第4学年 7-28
経営学	第4学年 7-29
人間関係論	第4学年 7-30
知的所有権	第4学年 7-31
プレゼンテーション	第4学年 7-32
会計学	第4学年 7-33
プログラミング言語	第4学年 7-34
時事英語	第4学年 7-35
確率統計	第4学年 7-36
ビジネス英語Ⅰ	第4学年 7-37
国際関係論	第4学年 7-38
情報特論Ⅰ	第4学年 7-39
実務研修	第4学年 7-40
卒業研究	第5学年 7-41
パブリック・スピーキングⅡ	第5学年 7-42
ビジネスライティングⅡ	第5学年 7-43
情報メディア演習	第5学年 7-44

企業論	第5学年 7-45
国際経済	第5学年 7-46
マーケティング	第5学年 7-47
視聴覚情報概論	第5学年 7-48
言語文化	第5学年 7-49
国際金融論	第5学年 7-50
広告・広報メディア概論	第5学年 7-51
貿易実務	第5学年 7-52
情報システム論	第5学年 7-53
ビジネスと法律	第5学年 7-54
社会調査	第5学年 7-55
文献講読	第5学年 7-56
第2外国語Ⅲ	第5学年 7-57
第2外国語Ⅲ	第5学年 7-58
ビジネス英語Ⅱ	第5学年 7-59
第2外国語Ⅳ	第5学年 7-60
第2外国語Ⅳ	第5学年 7-61
情報特論Ⅱ	第5学年 7-62

コミュニケーションの専門科目 情報学 科

コミュニケーション
情報学 科

平成19年度学年別教育課程表

【専門科目】

コミュニケーション情報学科

授業科目	単位数	学年別					備考
		1	2	3	4	5	
コミュニケーション論入門		2					必修得科目
卒業研究					2		必修得科目
ビジネス事情	1						必修得科目
情報基礎	2						
ビジュアル情報基礎	2						
経営情報入門			2				
情報基礎演習			2				
ビジュアル情報演習			2				
コミュニケーション論			2				
ビジネス事情II			1				
簿記入門				2			
経営学入門				2			
経営情報演習				2			
経営情報システム基礎				2			
情報処理基礎				2			
情報処理演習				2			
言語コミュニケーション論				2			
パブリック・スピーキングI					2		
ビジネス・ライティングI					2*		
第2外国語I					2		
第2外国語II					2		
情報コミュニケーション学					2*		
人間関係論					2		
知的所有権					2		
プレゼンテーション学					2		
会計学					2		
プログラミング言語					2		
時事英語					2		3科目選択
確率統計					2*		
ビジネス英語I					2		
国際関係論					2*		
パブリック・スピーキングII						2	
ビジネス・ライティングII						2	
情報メディア演習						2	
企業経営論						2	
国際経済						2*	
マーケティング論						2*	
視覚情報概論						2*	
言語文化						2	
国際金融論						2	
広告・広報メディア概論						2	
貿易実務論						2	
情報システムと法律						2	5科目選択
ビジネスと法						2	
社会調査						2	
文獻調読						2	
第2外国語III						2	
ビジネス英語II						2	
第2外国語IV						2	
開設単位数小計		7	9	16	32	42	
選択科目				1			集中講義
ビジネス事情演習I					1		
情報特論II						1	
実務研究					1		
開設単位数小計				1	2	1	
専門科目開設単位数合計		7	9	17	34	43	
一般科目開設単位数合計		7	9	17	28	33	
開設単位数合計		24	24	18	11	5	
開設単位数合計		24	24	18	11	5	
開設単位数合計		31	33	35	45	48	
開設単位数合計		31	33	35	39	38	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

専門科目の概要（平成13年度以降入学者用教育課程）

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
		コミュニケーション論(2) 心理学入門(2)	人間関係論(2)	視聴覚情報概論(2)
			パブリックスピーキングⅠ(2) ビジネスライティングⅠ(2) 時事英語(2) ビジネス英語Ⅰ(2) 第2外国語Ⅰ(2) 第2外国語Ⅱ(2)	パブリックスピーキングⅡ(2) ビジネスライティングⅡ(2) 文献講読(2) ビジネス英語Ⅱ(2) 第2外国語Ⅲ(2) 第2外国語Ⅳ(2)
情報基礎(2) 情報基礎演習(3)	情報処理(2) 情報処理演習(2)			言語文化(2)
		情報統計(2) 情報コミュニケーション(2)(2) 情報コミュニケーション演習(2) 情報メディア論(2)		情報メディア演習(2)
	マルチメディアⅠ(1)	マルチメディアⅡ(1)	プレゼンテーション(2) プログラミング言語(2)	情報システム論(2)
			情報特論Ⅰ(1) 確率統計(2)	情報特論Ⅱ(1)
図学(2) デザイン(2)	デザイン演習(2) ビジュアル情報(2)(2)			広告・広報メディア論(2)
時事問題(1)	時事問題(1)			
		財務会計(2) マクロ・ミクロ経済学(2)		企業論(2) 国際経済(2)
			経営学(2) 知的所有権(2) 会計学(2)	マーケティング(2) 国際金融論(2) 貿易実務(2) ビジネスと法律(2)
		セクレタリー(1)		社会調査(2)
			国際関係論(2) 実務研修(1)	
		セミナー(1)(2)		卒業研究(8)
課 題 演 習 (1~2)				

必修科目 選択科目 () 単位数

専門科目の概要 (平成17年度以降入学用教育課程)

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
				文献講読(2)
			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)			
		言語コミュニケーション(2)		
			非言語コミュニケーション(2)	
			異文化コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(2)			
		情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)			
		情報処理演習(2)	プログラミング演習(2)	
				情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(2)	
			確率統計学(2)	確率統計学演習(2)
				管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経済学演習 I(2)	経営数学演習 II(2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(2)		
ビジネス時事 I(2)	ビジネス時事 II(1)	ビジネス事情演習(1)		ビジネス創造セミナー(2)
			経済学演習 I(2)	経済学演習 II(2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	
				組織論(2)
			マーケティング論(2)	
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)		
			財務会計(2)	
				会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

必修科目
 選択科目
 () 単位数

専門科目の概要 (平成19年度以降入学者用教育課程)

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)	言語コミュニケーション(1)	非言語コミュニケーション入門(2)	
			異文化コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(1)	情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)	情報処理演習(1)	プログラミング演習(2)	情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(1)	
			確率統計学(2)	確率統計学演習(2)
				管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経営数学演習 I (1)	経営数学演習 II (2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(1)		
ビジネス時事(1)		ビジネス事情演習(1)	経済学演習 I (2)	ビジネス創造セミナー(2)
				経済学演習 II (2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	組織論(2)
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)	財務会計(2)	会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

 必修科目
 必履修科目
 選択科目
 () 単位数

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論入門 Introduction to Communication Science	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	コミュニケーション学の基礎となる要約力、論理的な発話能力を養うためのトレーニングを行い、読む力を養う。メモの技術、ワープロ・表計算ソフトの基礎を学ぶ。クラス内で様々なコミュニケーションを実体験する。				
到達目標	①和文タイプを100字/1分間(漢字含有率約30%)を入力できる。 ②英文60words/1分間(約250字)を入力できる。 ③2000字の文章を400字に要約し、内容についての確にコメントできる。 ④Excelのif文と簡単なグラフが作成できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1)、(F-2)。				
履修上の注意	宿題を毎回やり終えてから授業に臨むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	授業概要説明、諸注意、アンケート	授業目標の把握、Windowsの基本的操作			
第2週	タイピング練習、Word 1	文章の入力、文字の変換、保存、印刷			
第3週	タイピング練習、Word 2	複写、削除、移動			
第4週	タイピング練習、Word 3	編集機能(1)			
第5週	タイピング練習、Word 4	編集機能(2)			
第6週	タイピング練習、Excel 1	入力の基礎、sum関数、average関数			
第7週	タイピング練習、Excel 2	様々なデータ入力の方法			
第8週	タイピング練習、Excel 3	相対番地、絶対番地			
第9週	タイピング練習、Excel 4	絶対参照			
第10週	タイピング練習、Excel 5	max関数、min関数、count関数			
第11週	タイピング練習、Excel 6	if関数(1)			
第12週	タイピング練習、Excel 7	if関数(2)			
第13週	タイピング練習、Excel 8	if関数(3)			
第14週	タイピング練習、Excel 9	if関数(4)、グラフ作成(1)			
第15週	タイピング練習、Excel 10	if関数(5)、グラフ作成(2)			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	文章の並べ替え、結合(1)	コミュニケーションの基本的定義、メモの取り方			
第17週	文章の並べ替え、結合(2)	ブラウジング、読書法			
第18週	文章の並べ替え、結合(3)	日本人の読書力			
第19週	文章の要約(1)	音読の重要性			
第20週	文章の要約(2)	暗記の重要性			
第21週	文章の要約(3)	手書きの重要性、ワープロソフトの利便性			
第22週	文章の要約(4)	日誌(日記)の重要性			
第23週	後期中間試験				
第24週	図化・文章化の往復運動(1)	自己開示			
第25週	図化・文章化の往復運動(2)	ペルソナ			
第26週	図化・文章化の往復運動(3)	親和表現			
第27週	図化・文章化の往復運動(4)	アイ・コンタクト			
第28週	人間関係と日本語運用能力(1)	ポジショニング			
第29週	人間関係と日本語運用能力(2)	身体接触			
第30週	人間関係と日本語運用能力(3)	時間と色彩			
後期末試験	実施する				
教科書	『実践!日本語ドリル』、齋藤孝著、宝島社 / 『30時間でマスター Word&Excel2002』、実教出版				
参考図書	『コミュニケーション力』齋藤孝著、岩波書店				
評価方法	定期試験 25%、タイピング25%、小テスト 25%、課題及び発表25%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情 Business Topic	1	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	ビジネスに関連する基礎的な政治・時事問題について学ぶ。				
到達目標	①政治問題に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ②時事問題に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで, 最新の政治・時事問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方およびレポートの書き方		
第2週	国際政治(1)		国際社会と国際法		
第3週	国際政治(2)		国際連盟		
第4週	国際政治(3)		国際連合		
第5週	国際政治(4)		PKO活動		
第6週	時事問題		最新の政治ニュースを読む		
第7週	総合演習		確認テスト		
第8週	国際政治(5)		冷戦の構造		
第9週	国際政治(6)		冷戦の成立		
第10週	国際政治(7)		新冷戦期		
第11週	国際政治(8)		冷戦の終結		
第12週	国際政治(9)		国際紛争		
第13週	国際政治(10)		民族紛争		
第14週	時事問題		最新の政治ニュースを読む		
第15週	総合演習		これまでの復習		
前期期末試験	実施する				
教科書	教養の政治学・経済学, 香川勝俊, 学術図書出版社 そうだったのか現代史, 池上彰, ホーム社				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 確認テスト20%, 課題10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎 Information Literacy	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	小泉 康一
授業概要	一般科目、専門科目および情報系科目の基礎となる事項、コンピュータの操作方法を学ぶ。高専生として必要最低限の情報に関する知識を習得する。				
到達目標	①電子メール、ブラウザが利用でき、HTMLで簡単なホームページが作成できる。 ②プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作ができる。 ③初歩的なプログラミングができる。 ④情報技術の基礎知識を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (D-2). (D-3). (F-3).				
履修上の注意	この授業で得た知識・技術を他の教科・科目で利用できなければならない。失敗を恐れず、コンピュータをどんどん使ってみてほしい。ただし、利用に当たっては、利用規則を遵守すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オリエンテーション	学習の進め方、演習室の利用方法、eメールの使用方法			
第2週	ネットワークの利用方法	Webの使用方法、タイピング、知的所有権			
第3週	HTML(1)	タグの使い方 center, font, b,i,u,br,hr			
第4週	HTML(2)	タグの使い方 ul, ol, img, table, a			
第5週	HTML(3)	自己紹介Webページ作成			
第6週	プレゼンテーション(1)	文字、図形の入力方法			
第7週	プレゼンテーション(2)	絵図、アニメーション			
第8週	プレゼンテーション(3)	スライドについて 見やすい大きさ、配置、色			
第9週	表計算(1)	入力方法とsum関数			
第10週	表計算(2)	average,max,min関数			
第11週	表計算(3)	グラフ、その他の関数			
第12週	プレゼンテーション(4)	発表の聴講、評価			
第13週	プレゼンテーション(5)	発表の聴講、評価			
第14週	プレゼンテーション(6)	発表の聴講、評価			
第15週	プレゼンテーション(7)	発表の聴講、評価、まとめ			
前期末試験	実施しない				
後期 第16週	HTML(4)	自己紹介Webページ鑑賞、検討			
第17週	プログラミング演習(1)	フローチャート			
第18週	プログラミング演習(2)	最大値の求め方			
第19週	プログラミング演習(3)	ソート、探索			
第20週	プログラミング演習(4)	円周、円の面積、単位変換			
第21週	プログラミング演習(5)	if文、forループ			
第22週	プログラミング演習(6)	課題演習			
第23週	情報の基礎(1)	情報の基礎、情報の単位、n進法			
第24週	情報の基礎(2)	論理演算、アナログとデジタル			
第25週	情報の基礎(3)	論理演算の演習			
第26週	情報の基礎(4)	通信技術、伝送方式、その他の通信			
第27週	情報の基礎(5)	コンピュータの構成、ハードウェアの基礎			
第28週	情報の基礎(6)	入力装置、インターフェースとバス			
第29週	情報の基礎(7)	期末試験に関して、まとめ			
第30週	コンピュータネットワーク	トポロジ、LAN、TCP/IP、ドメイン名、パケット交換方式、セキュリティ			
後期末試験	実施する				
教科書	わかりやすい情報技術基礎、コロナ社。				
参考図書					
評価方法	定期試験を40%、課題、小テストを40%、プレゼンテーションを20%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報基礎 Basic Visual Communication	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会において重要な役割を果たしている視覚情報は、様々な要素によって成り立っている。その基本要素である文字、形(具象、抽象)、色彩の情報要素を理解した上で、自ら計画・作成し、視覚的な表現基礎を学習する。				
到達目標	①形を空間的に把握でき、紙面に鉛筆でデッサンが描ける。 ②色彩の基本三原色から混色して基本色相が表現できる。 ③混色方法が理解できて、基本三原色・白・黒の絵の具からモデルのかたちと色彩表現ができる。 ④文字の意味を理解し、ビジュアル表現化する基礎技術が習得できる。 ⑤平面作図法と作図が修得できる。 ⑥投影図法と透視図法が修得できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-2). JABEE基準1(1)との対応:				
履修上の注意	前期は立体を把握するデッサン力、色彩を理解する三原色、文字の意味をビジュアル化する表現方法に留意する。後期はさまざまな平面作図法、投影図、透視図の作図法から空間と立体の平面表現、平面からの立体表現方法を演習を通して学習できるように留意する				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	発想と表現	点・線・面による鉛筆表現方法			
第2週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙を折り曲げることでできる立体と空間を表現描写する			
第3週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙をねじることでできる立体と空間を表現描写する			
第4週	鉛筆表現とデッサン	1枚の紙から展開図を作図して制作した立体表現描写			
第5週	鉛筆表現とデッサン	紙以外の質感を持つモデルの鉛筆表現描写			
第6週	色彩と混色	色彩の三原色を混色して全ての色彩を作る			
第7週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第8週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第9週	色彩表現と描写	自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法			
第10週	果物と質感	果物の色彩表現と質感表現、色彩混色の方法			
第11週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるアイディアと方法			
第12週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現			
第13週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現			
第14週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ			
第15週	タイポグラフィ	WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	平面基礎図形の作図法	水平線、垂直線、平行線、平行線間の等分法			
第17週	平面基礎図形の作図法	円周の等分、角の等分、接線の作図、円周の直線化			
第18週	平面基礎図形の作図法	ルート矩形、黄金矩形の作図法			
第19週	平面基礎図形の作図法	正多角形:正5角形、正6角形、正7角形、正8角形			
第20週	平面基礎図形の作図法	弧成楕円、放物線の作図法			
第21週	平面基礎図形の作図法	弧成スパイラルの作図法			
第22週	後期中間試験	平面基礎図形の作図法			
第23週	投影図の作図法	立体の投影法と概念、第1角法の投影図の作図法			
第24週	投影図の作図法	第1角法の投影図の作図法			
第25週	投影図の作図法	第1角法の投影図の作図法			
第26週	投影図の作図法	透視空間の概念、直接透視法、立体の透視法			
第27週	透視図の作図法	基本立体の透視法			
第28週	透視図の作図法	基本立体の透視法			
第29週	透視図の作図法	応用立体の透視法			
第30週	透視図の作図法	応用立体の透視法			
後期期末試験	実施する				
教科書	前期:視覚表現, 南雲治嘉,グラフィック社 後期:デザイン製図ハンドブック, 小山清男,グラフィック社				
参考図書	ベーシック・デザイン, 馬場雄二, グヴィット社 色料の三原色を応用したカラーチャート制作, 内山昭代, 福島高専研究紀要43号				
評価方法	前期:課題作品提出を80%, 制作レポート提出を20%で評価 後期:中間試験, 期末試験の成績を70%, 授業時の演習プリント提出を30%で評価				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報入門 Introduction to Management Information	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	コンピュータの基本的な仕組みを理解するとともに企業の業務におけるコンピュータの役割を理解する。さらにコンピュータを道具として、その部署及び担当業務に役立てる手法を身につける。特に効率化の意味を理解する。				
到達目標	①初級システムアドミニストレータ程度の知識を理解できる。 ②初級システムアドミニストレータ程度の技能を身につける。 ③業務改善の方法が理解できる。 ④国家試験に合格できる実力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (C-2). (D-2). (E-3).				
履修上の注意	初級システムアドミニストレータ程度の知識と技能を身につけられるように、授業時間ごとの予習に、復習に努めるとともに自主的に問題に取り組むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	コンピュータの管理者 コンピュータの業務 コンピュータの仕組み(1) コンピュータの仕組み(2) 業務の整理(1) 総合演習(1) 前期中間テスト 業務の整理(2) 基幹業務 システム開発 入出力設計(1) 入出力設計(2) 入出力設計(3) テストランとシステム運用 総合演習(2) 実施する 利用者とコンピュータ(1) 利用者とコンピュータ(2) ハードウェア(1) ハードウェア(2) ソフトウェア(1) 総合演習(3) 後期中間試験 ソフトウェア(2) 表計算 データベース(1) データベース(2) コンピュータネットワーク 多様な活用法 環境整備と運用管理 総合演習(4) 実施する	システムアドミニストレータの必要性 業務と情報の流れ、問題点の発見と改善 コンピュータと人間の機能 コンピュータの種類、ソフトウェアとその種類 QC七つ道具 専門用語の確認 新QC七つ道具 基幹業務システムの考え方 システム開発の手法と手順 入出力画面の設計 入力操作の定義 出力設計 テストの目的、テストの種類、PDCAサイクル 専門用語の確認 EUCが実現できた背景 コンピュータ利用の変遷 パソコンの基本構成 パソコンの動作の仕組み ソフトウェアの種類 専門用語の確認 アプリケーションソフト、データ形式 表計算ソフトの基礎 データベースソフトの基礎 SQL、正規化、射影、選択、結合 LAN、WAN、インターネット マルチメディア、イントラネット、暗号化技術 オフィス環境、機器の配置 専門用語の確認			
教科書	初級システム標準教科書、早川芳彦他、オーム社 情報C、教研出版				
参考図書	初級シスアド完全解答、オーム社				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎演習 Computer Literacy Practice	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	中尾 剛
授業概要	コンピュータを活用し、情報の収集、整理、報告などを効率的に行う技術を学ぶ。				
到達目標	①情報の収集、整理、報告の技術を習得する。 ②情報機器の活用能力を習得する。 ③情報セキュリティーおよび情報倫理についての知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2), (D-3).				
履修上の注意	コンピュータおよびアプリケーションの基本的な使い方は修得しているものとして演習を行うので、1年次の情報基礎で学んだことを復習しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	情報技術概要	情報処理機器の基本技術			
第2週	情報倫理と著作権	情報を扱う上での倫理と著作権			
第3週	インターネットの概要	インターネットの概要と技術			
第4週	電子メールの利用	電子メール仕組みと利用方法			
第5週	情報セキュリティー	ネットワークセキュリティーと犯罪			
第6週	情報検索	インターネットを用いた情報検索			
第7週	前期中間試験				
第8週	文書作成(1)	文書処理の基本			
第9週	文書作成(2)	レポートの書き方			
第10週	報告書作成(1)	テーマを決めて報告書を作成			
第11週	報告書作成(2)	テーマを決めて報告書を作成			
第12週	文書作成(3)	図形を使用した表現			
第13週	文書作成(4)	数式の作成			
第14週	報告書作成(3)	テーマを決めて報告書を作成			
第15週	報告書作成(4)	テーマを決めて報告書を作成			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	表計算の基礎(1)	表の作成と整理			
第17週	表計算の基礎(2)	グラフの作成			
第18週	統計基礎(1)	Excelを用いた統計処理1			
第19週	統計基礎(2)	Excelを用いた統計処理2			
第20週	表計算とデータベース(1)	Excelによるデータベースの基本概念			
第21週	表計算とデータベース(2)	集計機能とレコード抽出			
第22週	データ集計演習(1)	数値データの集計と報告書作成			
第23週	データ集計演習(2)	数値データの集計と報告書作成			
第24週	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの基本			
第25週	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションの設計と作成			
第26週	プレゼンテーション(3)	プレゼンテーションの設計と作成			
第27週	プレゼンテーション(4)	発表演習(1)			
第28週	プレゼンテーション(5)	発表演習(2)			
第29週	プレゼンテーション(6)	発表演習(3)			
第30週	まとめ	1年間のまとめの報告書を作成			
後期期末試験	実施しない				
教科書	Microsoft Office2003を使った情報リテラシーの基礎、近代科学社				
参考図書					
評価方法	前期中間試験30%および課題70%により総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報演習 Visual Introduction Practice	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	現代の情報化社会に溢れている多くの情報の中で、受け取る側に配慮されたビジュアル情報が求められている。その情報に求められる、適切なフォント、サイズ、文章の量、適切な写真、図版、適切に配慮された背景色、文字色等を総合的にデザイン計画できるよう媒体性格にあわせた構成力を実習する。				
到達目標	①ビジュアル情報の構成要素を使って伝達しやすいデザイン構成の技術が学習できる。 ②色彩学の基礎を学習することで、様々な媒体にあった視覚効果の高い表現ができる。 ③立体、空間の概念を学習することで、広い空間表現、奥行き感を表現することができる。 ④アプリケーションソフトを使用し、基礎デザインから応用デザイン制作ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-4). (E-3). JABEE基準1(1)との対応:				
履修上の注意	与えられたテーマからアイデア、資料調査、制作、仕上げまで、デザイン演習できるよう留意する。 ソフト機能を理解し、目的に適ったビジュアル表現の工夫ができるよう留意する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	直線とデザイン	直線と色彩を使ったデザイン構成			
第2週	放射線とデザイン	放射線と色彩を使ったデザイン構成 *直線デザイン鑑賞			
第3週	放物線のデザイン	線で構成できるデザインと色彩構成 *放射線デザイン鑑賞			
第4週	放物線のデザイン	物線線作図で構成できるデザインと色彩構成			
第5週	グラデーションとデザイン	グラデーション編集と色彩のデザイン構成 *放物線デザイン鑑賞			
第6週	グラデーションとデザイン	グラデーション編集と文字のレイアウトを加えたデザイン構成			
第7週	スパイラルとデザイン	スパイラル作図で構成できるデザインと色彩構成 *グラデーション鑑賞			
第8週	スパイラルとデザイン	スパイラル作図で構成できるデザインと空間・色彩構成			
第9週	スパイラルとデザイン	スパイラル作図で構成できるデザインと空間・色彩構成			
第10週	色彩学:三原色の基礎知識	光の三原色・色料の三原色の基礎知識 *スパイラル作品鑑賞			
第11週	色彩学:光の三原色	色の見えるしくみ、眼の構造、色彩の知覚、太陽のスペクトル			
第12週	色相環と色の伝達	マンセル色相環、オストワルト色相環、PCCS色相環、			
第13週	色彩の心理	残像、錯視(平面錯視)			
第14週	色彩の心理	錯視(立体錯視)			
第15週	錯視の応用	エッシャー、福田繁雄作品鑑賞とレポート制作			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	色彩と属性、色調	色彩の視認性、色彩の誘目性、色調と色彩調和			
第17週	配色テクニック	ドミナント、アクセント、セパレーション			
第18週	CDジャケット制作	デザインの構成要素を使用したCDジャケット制作			
第19週	CDジャケット制作	デザインの構成要素を使用したCDジャケット制作			
第20週	CDジャケット制作	デザインの構成要素を使用したCDジャケット制作			
第21週	言葉と色彩イメージ	一つの言葉に込められる両極の意味を考慮した色彩イメージデザイン			
第22週	言葉と色彩イメージ	一つの言葉に込められる両極の意味を考慮した色彩イメージデザイン			
第23週	言葉とイメージ	一つの言葉に込められる両極の意味を考慮した色彩イメージデザイン			
第24週	絵本とイメージデザイン	ことばあそびからイメージされる絵本デザイン			
第25週	絵本とイメージデザイン	ことばあそびからイメージされる絵本デザイン			
第26週	絵本とイメージデザイン	ことばあそびからイメージされる絵本デザイン			
第27週	本の歴史と本の構造	人類が文字を使用して記録を残す文化が「本」という形になった			
第28週	ブックデザイン制作	ブックデザインのプレゼンテーション、本の内容を理解したブックデザイン制作			
第29週	ブックデザイン制作	本の内容を理解したブックデザイン制作			
第30週	ブックデザイン制作	本の内容を理解したブックデザイン制作			
後期期末試験	実施しない				
教科書	色彩,大井義雄ほか,美術出版社 デザインの色彩,中田満雄ほか,日本色研事業				
参考図書					
評価方法	課題作品提出80%,制作レポート20%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論 Introduction to Communication Science	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	基礎的数理解析法を学び、事例分析能力を育成する。				
到達目標	①関数とグラフを理解し、解析幾何の基礎的問題が解ける。 ②システム・シンキングの手法を理解し、事例分析ができる。 ③確率・エントロピーの意味を理解し、基礎的問題が解ける。 ④コミュニケーションモデルを理解し、簡単な事例分析ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1), (D-5).				
履修上の注意	問題を数多く解くこと。また、新聞等を毎日読み、外交・政治・経済問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	基礎数学の復習(1)		直線の方程式の演習		
第2週	基礎数学の復習(2)		二次関数の復習		
第3週	基礎数学の復習(3)		二次方程式、二次不等式の復習		
第4週	基礎数学の復習(4)		グラフと不等式の復習		
第5週	基礎数学の復習(5)		関数とグラフの総合演習(1)		
第6週	基礎数学の復習(6)		関数とグラフの総合演習(2)		
第7週	前期中間試験				
第8週	システム・シンキング入門(1)		ロジックツリーとその応用		
第9週	システム・シンキング入門(2)		システムの定義とその具体例		
第10週	システム・シンキング入門(3)		フィードバックシステムとその応用		
第11週	システム・シンキング入門(4)		フィードフォワードシステムと予言の自己成就		
第12週	システム・シンキング入門(5)		拡張フィードバックループ		
第13週	システム・シンキング入門(6)		バランスフィードバックループ		
第14週	システム・シンキング入門(7)		事例分析		
第15週	総合演習(1)		前期のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	情報理論(1)		確率の復習		
第17週	情報理論(2)		確率の演習		
第18週	情報理論(3)		指数関数の基本的性質		
第19週	情報理論(4)		指数関数の演習		
第20週	情報理論(5)		対数関数の基本的性質		
第21週	情報理論(6)		対数関数の演習		
第22週	後期中間試験				
第23週	情報理論(6)		エントロピーの基本的性質		
第24週	情報理論(7)		エントロピーの演習(1)		
第25週	情報理論(8)		エントロピーの演習(2)		
第26週	コミュニケーション論入門(1)		シャノンウィーバーのコミュニケーションモデル		
第27週	コミュニケーション論入門(2)		拡張シャノンウィーバーのコミュニケーションモデル		
第28週	コミュニケーション論入門(3)		メタコミュニケーションモデル		
第29週	コミュニケーション論入門(4)		コミュニケーションモデルの応用		
第30週	総合演習(2)		1年間のまとめ		
後期期末試験	実施する				
教科書	システム・シンキング入門、西村行功、日本経済新聞社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、小テスト及び課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情Ⅱ Business Topics Ⅱ	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	ビジネスに関連する応用的な政治・時事問題について学ぶ。				
到達目標	①政治問題に関する応用的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ②時事問題に関する応用的な情報を正しく理解できる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の政治・時事問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	イントロダクション 国際政治(1) 国際政治(2) 国際政治(3) 国際政治(4) 時事問題 総合演習 国際政治(5) 国際政治(6) 国際政治(7) 国際政治(8) 国際政治(9) 国際政治(10) 時事問題 総合演習 実施する		授業の進め方およびレポートの書き方 国際社会と国際法 国際連盟 国際連合 PKO活動 最新の政治ニュースを読む 確認テスト アフガニスタン チェチェン 旧ユーゴ紛争 北朝鮮問題 印パ紛争 東ティモール独立 最新の政治ニュースを読む これまでの復習		
教科書	教養の政治学・経済学, 香川勝俊, 学術図書出版社 そうだったのか現代史パート2, 池上彰, ホーム社				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 確認テスト20%, 課題10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
簿記入門 Introduction to Bookkeeping	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	会計学の基礎を学んでいく上で、複式簿記の仕組みを理解することは非常に有意義であり、かつ必要不可欠である。本講義では、全経3級レベルの簿記一巡の手続きについて学習する。				
到達目標	①基本的な仕訳と転記が確実にできる。 ②試算表やその他帳簿の作成ができる。 ③個人企業における財務諸表の作成手続きを理解できる。 ④11月および2月に実施される簿記能力検定試験の3級合格を目指し、試験問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1).				
履修上の注意	1つでも多く、1回でも多く問題を解くことが大切である。制限時間内に試験問題に解答できるように、積極的に過去問を解き、自己学習すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 資産・負債・資本 収益・費用 取引 勘定 仕訳帳・総勘定元帳 試算表 復習 決算(1) 現金・預金 商品 売掛金・買掛金 固定資産(1) 固定資産(2) 復習 実施する		授業の進め方、検定試験の説明、簿記の5要素 貸借対照表の作成 損益計算書の作成 取引の意味 勘定科目 仕訳・転記 試算表の作成 これまでの復習 決算手続き 現金、当座預金他 3分法 人名勘定、貸倒引当金 減価償却 固定資産の売却 前期のまとめ		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	手形 有価証券 各種債券・債務 資本金 税金 決算(2) 決算(3) 復習 第1問対策 第2問対策 第3問対策(1) 第3問対策(2) 第4問対策 第5問対策 復習 実施する		約束手形、為替手形 買入、売却、評価 貸付金、借入金他 個人企業の資本金 個人企業の税金 精算表の作成 財務諸表の作成 これまでの復習 仕訳問題 計算問題 伝票問題 試算表作成問題 帳簿記入問題 財務諸表作成問題 1年間のまとめ		
教科書	『基本商業簿記・上』、『完全分類 全経簿記, 3級商業簿記』、『全経簿記 改訂ワークブック, 3級商業簿記』英光社; 配付資料				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に判断する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営入門 Introduction to Management	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	経営学を初めて学ぶ学生のための入門(総論)的な授業である。				
到達目標	①企業形態論に関する基礎的な知識を習得する。 ②経営学説史に関する基礎的な知識を習得する。 ③経営組織論に関する基礎的な知識を習得する。 ④個別の経営理論に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	夏休みにレポートを作成してもらい、その内容を発表してもらう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	イントロダクション 経営学と企業の特徴(1) 経営学と企業の特徴(2) 経営学と企業の特徴(3) 経営学と企業の特徴(4) 経営学と企業の特徴(5) 総合演習 経営学と企業の特徴(6) 経営理論の流れ(1) 経営理論の流れ(2) 経営理論の流れ(3) 経営理論の流れ(4) 経営理論の流れ(5) 経営理論の流れ(6) 総合演習 実施する 課題発表 課題発表 課題発表 経営理論の流れ(7) 経営理論の流れ(8) 経営理論の流れ(9) 経営組織の特徴と理論(1) 経営組織の特徴と理論(2) 個別の管理論および経営論(1) 個別の管理論および経営論(2) 個別の管理論および経営論(3) 個別の管理論および経営論(4) 個別の管理論および経営論(5) 個別の管理論および経営論(6) 総合演習 実施する	授業の進め方とレポートの書き方 経営学とその位置づけ 企業の特徴と企業の種類 株式会社の特徴と仕組み 所有と経営の分離 現代企業の組織構造 確認テスト コーポレート・ガバナンス テイラー フォード ファヨール 人間関係論 アージリス, マズロー マクレガー, ハーズバーグ これまでの復習 課題発表 課題発表 課題発表 バーナード サイモン コンティンジェンシー理論, 組織間関係論 基本的な組織形態 様々な組織形態 経営戦略論 人事管理論 リーダーシップ論 マーケティング論 グローバル戦略 日本的経営論 これまでの復習			
教科書	テキスト経営学(増補版), 井原久光, ミネルヴァ書房				
参考図書	経営管理, 塩次喜代明(他), 有斐閣 企業論(新版補訂版), 三戸浩(他), 有斐閣 テキスト現代企業論, 坂本恒夫・大阪良宏, 同文館出版				
評価方法	定期試験70%, 確認テスト15%, 課題15%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営数学入門 Introduction to Mathematics for Management	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	経営に必要な微分法、積分法および線形代数の基礎を学習する。				
到達目標	①経営で必要とされる最大・最小問題が解ける。 ②積分の意味を理解し、基礎的積分問題が解ける。 ③行列・行列式を理解し、基礎的な産業連関表の計算が解ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (D-1).				
履修上の注意	問題を数多く解き、概念の理解に努める。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	微分法(1)			微分(2年)の復習	
第2週	微分法(2)			微分(2年)の復習	
第3週	微分法(3)			関数の極限	
第4週	微分法(4)			積と商の導関数	
第5週	微分法(5)			合成関数とその導関数	
第6週	微分法(6)			指数関数・対数関数の導関数	
第7週	前期中間試験				
第8週	微分法(7)			関数の増減・凹凸	
第9週	微分法(8)			関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(1)	
第10週	微分法(9)			関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(2)	
第11週	微分法(10)			微分法の総合演習	
第12週	積分法(1)			積分(2年)の復習	
第13週	積分法(2)			不定積分	
第14週	積分法(3)			不定積分の演習	
第15週	総合演習			前期のまとめ	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	積分法(4)			定積分	
第17週	積分法(5)			区分求積法	
第18週	積分法(6)			定積分の応用	
第19週	積分法(7)			積分法の総合演習	
第20週	線形代数(1)			行列、行列の積	
第21週	線形代数(2)			逆行列	
第22週	後期中間試験				
第23週	線形代数(3)			行列式の定義	
第24週	線形代数(4)			行列式の性質	
第25週	線形代数(5)			行列式の展開	
第26週	線形代数(6)			逆行列と連立方程式	
第27週	線形代数(7)			掃き出し法	
第28週	線形代数(8)			連立同次一次方程式	
第29週	線形代数(9)			固有値と対角化	
第30週	総合演習			まとめ	
後期期末試験	実施する				
教科書	新編高専の数学2、田代嘉宏著。森北出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報演習 Management Information Practice	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	業務の効率化をはかるコンピュータの利用法について理解する。 業務をコンピュータで処理する手順を習得する。				
到達目標	①業務の問題点を把握する方法を身につける。 ②業務の効率化の方法を身につける。 ③業務におけるコンピュータの利用法を理解する。 ④初級システムアドミニストレータの資格を取得できるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-4). (C-3). (D-3). (E-3). (F-4).				
履修上の注意	問題の解法を中心に行うので、十分に復習して解法を理解しておくこと。 授業時間ごとの予習、復習に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	業務改善	仕事の進め方の改善			
第2週	コンピュータシステム	データと処理の流れをつかまえる技法			
第3週	データの処理	データの直感的な表し方			
第4週	意思決定の手法	KJ法と決定表			
第5週	入出力設計	入力設計と画面出力			
第6週	前期中間総合演習	専門用語の確認			
第7週	前期中間試験				
第8週	テストラン、システム運用	テストおよび検収、稼働率、信頼度			
第9週	本体と周辺機器	性能と装置、周辺機器、性能評価			
第10週	ソフトウェア	基本ソフトウェア、応用ソフトウェア			
第11週	表計算ソフト	概要と操作			
第12週	データベースソフト	DBMS、選択、射影、統合、SQL			
第13週	コンピュータネットワーク	LAN、インターネット			
第14週	ハード・ソフトの導入とインストール	セットアップ・ファイル管理・セキュリティ管理			
第15週	前期総合演習	専門用語の確認			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	業務の分析と改善(1)	受注業務、在庫管理業務			
第17週	業務の分析と改善(2)	定量的効果、定性的効果			
第18週	基幹業務システム(1)	入出力画面の設計支援			
第19週	基幹業務システム(2)	システムのテスト支援			
第20週	コンピュータの実践知識(1)	ネットワーク運用管理			
第21週	後期中間総合演習	専門用語の確認			
第22週	後期中間試験				
第23週	コンピュータの実践知識(2)	アクセス制御			
第24週	管理者業務(1)	暗号化とその技術			
第25週	管理者業務(2)	デジタル署名			
第26週	表計算ソフト(1)	絶対参照、関数			
第27週	表計算ソフト(2)	グラフ機能			
第28週	データベースソフト(1)	SQL文によるデータの更新、挿入、削除			
第29週	データベースソフト(2)	クライアントサーバ型のデータベースシステム			
第30週	総合復習	専門用語の確認			
後期期末試験	実施する				
教科書	初級シスアド標準問題集、早川芳彦監修、オーム社編				
参考図書	初級シスアド標準教科書、早川芳彦監修、オーム社編 初級シスアド完全解答、オーム社編				
評価方法	定期試験の成績80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報システム基礎 Basic Administration Information Systems	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	田代 均
授業概要	経営情報システムの基礎を生産管理, 品質管理, 情報科学, システム工学と関連付けて学習する。				
到達目標	①製造業, 工場を理解する。 ②基礎的な生産管理, 品質管理手法を理解する。 ③システム, システム工学の定義及び基礎的なシステム工学の手法を理解する。 ④問題解決の合理的なアプローチ方法を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-2).(E-2)				
履修上の注意	数学, 情報科学の基礎を理解しておくことが必要。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	概要と授業ガイダンス			
第2週	経営情報とは	生産, 販売, 物流, 在庫管理			
第3週	生産管理とは	製造業, 工場, CS, Q, C, D, E			
第4週	品質管理とは	品質, 仕様			
第5週	システムとシステム工学	システム, システム工学の定義			
第6週	グラフと行列によるシステム表現	構造モデルのためのグラフ理論			
第7週	前期中間試験				
第8週	創造工学の手法	KJ法, プレーンストーミング			
第9週	行列, 行列式の基礎	固有値, 固有ベクトル			
第10週	統計解析の基礎	データの標準化, 分散, 共分散, 相関			
第11週	統計的手法による問題構造の同定	主成分分析, 因子分析, クラスター分析			
第12週	構造モデル化による問題構造の同定	ISM法			
第13週	ものづくりの計画	工程のデータベース, リードタイム			
第14週	日程計画, 負荷計画	日程計画, 負荷計画			
第15週	前期総括演習	これまで学習した内容のまとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	生産手配の情報処理, 進捗管理	情報処理, 進捗管理			
第17週	生産と販売を結ぶ在庫管理	在庫の効果, 管理			
第18週	在庫管理のシステム化	在庫計画			
第19週	在庫管理の工夫	安全在庫, ランニングストック, 在庫の重点管理			
第20週	関連樹木法	関連樹木法			
第21週	スケジューリング	PERT			
第22週	後期中間試験				
第23週	システムモデルとしてのファジー集合	ファジー集合			
第24週	システムの信頼性	システムの信頼性			
第25週	生産管理の新たな動向(1)	ISO9000ファミリー, 14000シリーズ			
第26週	生産管理の新たな動向(2)	ERP, アウトソーシング			
第27週	生産管理の新たな動向(3)	TQC, TQM			
第28週	生産管理の新たな動向(4)	モジュール生産方式, シックスシグマ			
第29週	生産管理の新たな動向(5)	ロジスティックス, SCM			
第30週	後期総括演習	これまで学習した内容のまとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	図解生産管理, 田中一成, 日本実業出版社 システム工学入門, 寺野寿郎, 共立出版				
参考図書	はじめて学ぶ経営情報学, 高橋敏朗, 日科技連 経営情報システム, 島田辰巳, 高原康彦, 日科技連 システム工学とは何か, 渡辺茂, 須賀雅夫, 日本放送出版協会				
評価方法	定期試験の成績を80%, レポート等の課題の成績を20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報処理基礎	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	情報処理の基礎知識について学習する。				
到達目標	ハードウェアについて理解し、基本項目について説明できる。 ソフトウェアについて理解し、基本項目について説明できる。 表計算ソフトやデータベースシステムの基本を理解し、簡単な演習問題が解ける。 初級システムアドミニストレータ試験の合格を目指す。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-3), (B-4). JABEE基準1(1)との対応:				
履修上の注意	基本項目をしっかりと頭に入れてほしい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ハードウェアの基礎知識	論理素子、CPU、メモリ			
第2週	ハードウェアの基礎知識	記憶装置、入出力装置			
第3週	ハードウェアの基礎知識	コンピュータの種類			
第4週	ハードウェアの基礎知識	いろいろな計算問題			
第5週	ソフトウェアの基礎知識	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステム			
第6週	ソフトウェアの基礎知識	プログラムの種類、プログラミング言語			
第7週	前期中間試験				
第8週	ソフトウェアの基礎知識	アルゴリズムとデータ構造			
第9週	ソフトウェアの基礎知識	表計算ソフト			
第10週	ソフトウェアの基礎知識	データベースシステム			
第11週	システムの基礎知識	システムの構成			
第12週	システムの基礎知識	性能、信頼性			
第13週	システムの基礎知識	セキュリティ			
第14週	システムの基礎知識	標準化			
第15週	システムの基礎知識	基礎知識の確認、まとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	プログラミングの基礎(1)	ソフトウェアの種類、OS、言語処理系			
第17週	プログラミングの基礎(2)	基本制御構造、データ構造			
第18週	プログラミングの基礎(3)	アルゴリズムの記述方法、流れ図、基本制御構造			
第19週	アルゴリズムの基礎(1)	順次(逐次)処理			
第20週	アルゴリズムの基礎(2)	分岐(選択)処理			
第21週	アルゴリズムの基礎(3)	反復(繰り返し)処理			
第22週	後期中間試験				
第23週	アルゴリズムの基礎(4)	反復(繰り返し)処理			
第24週	データ構造の基礎(1)	1次元配列			
第25週	データ構造の基礎(2)	2次元配列、配列の応用			
第26週	文字列の処理(1)	文字列の定義			
第27週	文字列の処理(2)	文字列関数、文字列ステートメント			
第28週	グラフィックス(1)	図形の描画、座標系			
第29週	グラフィックス(2)	描画メソッド			
第30週	グラフィックス(3)	画像の取り扱い、まとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	初級シスアド合格教本 平成19年度春期秋期、技術評論社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストと課題を30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報処理演習 Information Processing Practice	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	島村 浩
授業概要	情報処理基礎の演習および実習に関する内容を学習する。				
到達目標	情報処理の基礎的な事柄に対して、説明ができる。 プログラミングの基本的な内容を理解し、プログラムが作成できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-3), (B-4). JABEE基準1(1)との対応:				
履修上の注意	問題を実際に解いてみないと、力がつかない。きちんと自分の頭で考えること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ハードウェアの基礎知識(1)	論理素子、CPU、メモリに関する基本事項			
第2週	ハードウェアの基礎知識(2)	記憶装置、入出力装置に関する基本事項			
第3週	ハードウェアの基礎知識(3)	コンピュータの種類に関する基本事項			
第4週	ハードウェアの基礎知識(4)	ハードウェアに関する基本事項			
第5週	ソフトウェアの基礎知識(1)	ソフトウェアの種類、OSに関する基本事項			
第6週	ソフトウェアの基礎知識(2)	プログラムの種類、言語に関する基本事項			
第7週	総合演習	ハードウェアとソフトウェアに関する基本事項			
第8週	ソフトウェアの基礎知識(3)	アルゴリズムとデータ構造に関する基本事項			
第9週	ソフトウェアの基礎知識(4)	表計算ソフトに関する基本事項			
第10週	ソフトウェアの基礎知識(5)	データベースシステムに関する基本事項			
第11週	コンピュータシステムの基礎知識(1)	システムの構成に関する基本事項			
第12週	コンピュータシステムの基礎知識(2)	性能、信頼性に関する基本事項			
第13週	コンピュータシステムの基礎知識(3)	セキュリティに関する基本事項			
第14週	コンピュータシステムの基礎知識(4)	標準化に関する基本事項			
第15週	コンピュータシステムの基礎知識(5)	基礎知識の確認、まとめ			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	プログラミングの基礎(1)	ソフトウェアの種類、OS、言語処理系に関する基本事項			
第17週	プログラミングの基礎(2)	基本制御構造、データ構造に関する基本事項			
第18週	プログラミングの基礎(3)	記述方法、流れ図、基本制御構造に関する基本事項			
第19週	アルゴリズムの基礎(1)	順次(逐次)処理に関する基本事項			
第20週	アルゴリズムの基礎(2)	分岐(選択)処理に関する基本事項			
第21週	アルゴリズムの基礎(3)	反復(繰り返し)処理に関する基本事項			
第22週	総合演習	アルゴリズムに関する基本事項			
第23週	アルゴリズムの基礎(4)	反復(繰り返し)処理に関する基本事項			
第24週	データ構造の基礎(1)	1次元配列に関する基本事項			
第25週	データ構造の基礎(2)	2次元配列、配列の応用に関する基本事項			
第26週	文字列の処理(1)	文字列の定義に関する基本事項			
第27週	文字列の処理(2)	文字列関数、文字列ステートメントに関する基本事項			
第28週	グラフィックス(1)	図形の描画、座標系に関する基本事項			
第29週	グラフィックス(2)	描画メソッドに関する基本事項			
第30週	グラフィックス(3)	画像の取り扱いに関する総合演習			
後期期末試験	実施しない				
教科書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院				
参考図書					
評価方法	課題60%および小テスト40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
言語コミュニケーション論 Verbal Communication	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	論理学・言語学の基礎(意味論を中心にして)を学ぶ。				
到達目標	①命題論理の基礎を理解する。 ②述語論理の基礎を理解する。 ③様相論理の基礎を理解する。 ④モンタギュー意味論の基礎を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-4), (F-1).				
履修上の注意	問題を数多く解き、概念の把握に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の目的・進行方法			
第2週	命題論理(1)	真理表			
第3週	命題論理(2)	トートロジー			
第4週	命題論理(3)	多値論理			
第5週	命題論理(4)	タプローによる定理証明			
第6週	命題論理(5)	問題演習			
第7週	前期中間試験				
第8週	命題論理(6)	タプロー体系の健全性と完全性			
第9週	命題論理(7)	シーケント命題論理LK(1)			
第10週	命題論理(8)	シーケント命題論理LK(2)			
第11週	命題論理(9)	シーケント命題論理LK(3)			
第12週	命題論理(10)	問題演習			
第13週	命題論理(11)	命題論理の応用			
第14週	命題論理(12)	総合演習			
第15週	総合復習	総合復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	述語論理(1)	述語論理の意味論			
第17週	述語論理(2)	タプロー			
第18週	述語論理(3)	タプロー体系の健全性と完全性			
第19週	述語論理(4)	シーケント述語論理LK(1)			
第20週	述語論理(5)	シーケント述語論理LK(2)			
第21週	述語論理(6)	問題演習			
第22週	後期中間試験				
第23週	様相論理(1)	様相論理の意味論			
第24週	様相論理(2)	様相論理の証明論			
第25週	様相論理(3)	様相論理の応用			
第26週	様相論理(4)	問題演習			
第27週	モンタギュー意味論(1)	自然言語と内包			
第28週	モンタギュー意味論(2)	指示対象としての内包			
第29週	モンタギュー意味論(3)	量子化とスコープ			
第30週	総合復習	総合復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	「意味とモデルの理論 論理学」 森田茂行著 東京電機大学 配布資料				
参考図書	「情報科学における論理」 小野寛晰著 日本評論社 「意味論1—形式意味論—」 杉本孝司著 くろしお出版				
評価方法	定期試験70%、小テスト、課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情演習 Seminar on Business Topics	3	1 (30)	選択	集中 週0時間 C	渡部 順一
授業概要	ビジネス事情Ⅰ、並びにビジネス事情Ⅱで学んだビジネスに関連する基礎的な政治・経済問題を踏まえて、現代社会の経済活動の中心である企業について、いわき地域を事例として学習する。				
到達目標	①いわき地域を事例として企業について、自ら調査できる能力を身につける ②自ら調査した内容を基に、その企業の強み、弱み、あるいは機会と脅威について議論ができる能力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3).				
履修上の注意	ホームページ等による企業調査と企業を実地に見学することによって、その企業について分析を加え、自らの意見について企業の方と意見交換できるようにすること。集中講義のため、放課後、土曜日、補講日、及び夏休み等に関講される場合もあるので、授業日には充分留意すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方		
第2週	企業調査その1		ホームページ、会社案内による企業調査		
第3週	企業調査その2		ホームページ、会社案内による企業調査		
第4週	企業調査その3		ホームページ、会社案内による企業調査		
第5週	企業調査のまとめ				
第6週	実地見学その1		企業訪問による企業調査		
第7週	実地見学その2		企業訪問による企業調査		
第8週	実地見学その3		企業訪問による企業調査		
第9週	実地見学まとめ				
第10週	調査まとめと考察その1		調査まとめを行い、発表準備を行う		
第11週	調査まとめと考察その2		調査まとめを行い、発表準備を行う		
第12週	調査の発表その1		プレゼンテーションと質疑応答		
第13週	調査の発表その2		プレゼンテーションと質疑応答		
第14週	調査の発表その3		プレゼンテーションと質疑応答		
第15週	報告書作成				
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週					
第17週					
第18週					
第19週					
第20週					
第21週					
第22週					
第23週					
第24週					
第25週					
第26週					
第27週					
第28週					
第29週					
第30週					
後期期末試験	実施する				
教科書					
参考図書					
評価方法	調査まとめ15%、見学まとめ15%、プレゼンテーション資料15%、プレゼンテーション15%、質疑応答20%、報告書の課題20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
セミナー Seminar	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	コミュニケーション情報 学科全教員
授業概要	5年次の卒業研究へ継続できるように、卒業研究の予備演習として各教員の研究室に配属する。				
到達目標	指導教員の研究領域を理解し、卒業研究の方向性を決める。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(B・2).(B・4).(D・4).(F・1).(F・2).(F・3).				
履修上の注意	自ら主体的に問題を発見し、その解決方法を探る。自主性、独創性、創造性を培うこと。 なお、配属先の決定は選抜によるが、各研究室の定員は概ね5名程度である。				
授業計画	<p>田代 均 生産管理入門、各々のテーマに関する文献講読、およびレポートへのまとめ、発表、討論、レポートで評価する。</p> <p>内山昭代 シンボルマーク制作と媒体展開、作品提出70%とレポート提出30%で評価する。</p> <p>森川 治 経済数学・ゲーム理論入門、ゼミと演習、課題とレポートで評価する。</p> <p>渡部順一 新企業創出と地域産業創出、文献の輪読、調査及び討論、作成したレジメ、発表原稿、及び発表内容で評価する。</p> <p>芥川一則 都市・地域経済学、ゼミ形式で授業を行う、「都市経済学の基礎」有斐閣アルマを使用、定期試験70%、発表内容30%で評価する。</p> <p>渡部美紀子 財務会計論、発表の内容、レポートおよび試験で評価する。</p> <p>遠原智文 経営(学)入門、レポートおよび発表内容で評価する。</p> <p>松江俊一 言語文化社会論、ゼミ形式の授業(前期)、文献講読および発表(後期)、レポート70%、発表30%で評価する。</p> <p>島村 浩 XMLの基礎知識習得、文献講読、実行環境の構築、課題システムの作成等、レポート50%およびシステムの完成度50%により評価する。</p>				
教科書	指導教員の指示による。				
補助教科書					
参考図書					
評価方法	指導教員の評価基準により判定する(授業計画の欄参照)。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
パブリック・スピーキング I Public Speaking I	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	大森 房子
授業概要	各トピックに関するリスニングとリーディングを通してさまざまな語彙・表現に習熟し、各自の意見をまとめて発表できるように基礎的な訓練を行う。				
到達目標	(1)ディクテーションを通して英語のリズム、弱音節の音変化に習熟する。 (2)テキストのパッセージに出てくる重要表現に習熟する。 (3)プレゼンテーション構成のためにキーワードを使うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	テキストのパッセージを、辞書を使って単語の意味を調べて、予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unit 1 Learning with a purpose (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第2週	Unit 1 Learning with a purpose (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第3週	Unit 2 Speaking up in class (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第4週	Unit 2 Speaking up in class (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第5週	Unit 3 Information everywhere (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第6週	Unit 3 Information everywhere (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第7週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集			
第8週	プレゼンテーションの準備(2)	トピックに関する語彙の補充と視点の確認			
第9週	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションの原稿作成			
第10週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
第11週	Unit 4 Preparing for a trip (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第12週	Unit 4 Preparing for a trip (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第13週	Unit 5 Living in a new culture (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第14週	Unit 5 Living in a new culture (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第15週	Unit 6 Cultural stereotypes (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 6 Cultural stereotypes (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第17週	Unit 6 Cultural stereotypes (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第18週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集・語彙の補充			
第19週	プレゼンテーションの準備(2)	トピックに関する視点確認・原稿作成			
第20週	プレゼンテーションの準備(3)	原稿作成			
第21週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
第22週	Unit 7 You are what you eat (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第23週	Unit 7 You are what you eat (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第24週	Unit 8 Living with water (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第25週	Unit 8 Living with water (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第26週	Unit 9 Problems and Hope (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第27週	Unit 9 Problems and Hope (2)	トピックに関する自分の意見をまとめる			
第28週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集・語彙の補充			
第29週	プレゼンテーションの準備(2)	トピックに関する視点の確認・原稿作成			
第30週	プレゼンテーションの実施	質疑応答をして理解を深める			
後期期末試験	実施する				
教科書	Presenting Different Opinions, Richard McMahon 著、南雲堂				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題、小テスト30%とし総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス・ライティング I Business Writing I	4	2 * (30)	必修	後期 週 2 時間 B	南 鉄男
授業概要	ビジネス英語で必要とされるライティングのミニマムエッセンシャルズを習得する。				
到達目標	(1) 英文メールの構成を理解し、内容を的確に把握できる。 (2) 問い合わせ、会議の設定、注文、苦情などの英文メールが作成できる。 (3) アメリカ英語、イギリス英語の違いに習熟し一貫した英文が作成できる。 (4) ビジネス英語で使われる語彙、表現に習熟し使いこなせる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習しておくこと。 自学自習の確認方法一課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	The Basics (1) The Basics (2) Making Contacts (1) Making Contacts (2) Arrangements (1) Arrangements (2) Meetings (1) Meetings (2) Enquiries (1) Enquiries (2) Orders, Dealing with Problems (1) Enquiries (2) Orders, Dealing with Problems (1) Orders, Dealing with Problems (2) Short Reports 実施する	フォーマルメール、インフォーマルメール 基本的レイアウト 最初のコンタクト 返事、情報を求める 招待と返事 旅行の手配、伝言、転送 会合の設定、議題の設定 変更および確認、謝辞 一般的問い合わせ、返事 特定の問い合わせ、助言 注文、返事、再注文 情報を求める 注文、返事、再注文 日程上の問題、損傷品 数値の提供、動向の描写			
教科書	English for Work: Everyday Business Writing、Badger & Pedley 著、ピアソン・エデュケーション(株)ロングマン英語販売部				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題および小テスト30%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語 I Second Foreign Language I	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級レベルをコミュニケーション能力を重視して学ぶ。L・Lを利用してロシア語の発音、リズム、会話を習得する。				
到達目標	①ロシア語の初級文法の知識を得る。 ②ロシア語の基礎的単語、慣用句を習得する。 ③基礎的表現の聞き取りができるようにする。 ④筆記体の読み書きの基礎を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	初歩の段階ではすべてを暗記するよう心掛ける。現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める。ロシア語のニュース、映画を見る。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	導入編	ロシア語の基本構造、日・英・露比較			
第2週	入門編 第1課	文字と発音(1)、Кто это? Где? 名詞の性			
第3週	入門編 第2課	文字と発音(2)、Что это?			
第4週	入門編 第3課	文字と発音(3)、発音上の規則			
第5週	入門編 第3課	ロシア語の基本文型(1)			
第6週	第2課(1)	ロシア語の基本文型(2)			
第7週	第2課(2)	辞書の使用方法			
第8週	前期中間試験				
第9週	第2課(2)	正書法の規則、動詞の不定形と現在人称変化(第1変化)			
第10週	第3課(2)	名詞の格変化(場所を表す前置格)			
第11週	第3課(3)	運動の動詞(1)、動詞の現在人称変化(第2変化)			
第12週	第4課(1)	運動の動詞(2)			
第13週	第4課(2)	名詞の格変化(男性名詞、中性名詞)			
第14週	第4課(3)	名詞の格変化(女性名詞)			
第15週	第4課(4)	形容詞の主格形、бытьの用法(1)			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	第5課(1)	名詞の格変化(目的を表す対格)、動詞の格支配			
第17週	第5課(2)	前置詞の格支配			
第18週	第5課(3)	名詞の複数形			
第19週	第5課(4)	-овать, -авать 動詞の変化			
第20週	第6課(1)	動詞の未来形			
第21週	第6課(2)	бытьの用法(2)			
第22週	第6課(3)	疑問詞когдаの用法			
第23週	後期中間試験				
第24週	第7課(1)	動詞の完了体・不完了体(1)			
第25週	第7課(2)	動詞の完了体・不完了体(2)			
第26週	第7課(3)	動詞の完了体・不完了体(3)			
第27週	第7課(4)	動詞の完了体・不完了体(4)			
第28週	第8課(1)	名詞の格変化(否定生格1)			
第29週	第8課(2)	名詞の格変化(否定生格2)			
第30週	第8課(3)	活動体名詞・不活動体名詞の対格			
後期期末試験	実施する				
教科書	『新ロシア語教程』、狩野亨他著、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』、木村彰一他編著、博友社 / 『不実な美女か貞淑な醜女(プス)か』、米原万里著、新潮社 / プリント配布				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テスト及び課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅱ Second Foreign Language II	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級レベルを会話能力を重視して学ぶ。ロシアの歴史・文化について幅広く知識を得る。				
到達目標	①ロシア語の初級文法、単語、語彙を駆使して、基本的な会話パターンを習得する。 ②ロシア語の筆記体の読み書きの基礎を習得する。 ③ロシア人の風俗・習慣、歴史、宗教の基礎的知識を得る。 ④ロシアの音楽、文学、芸術の基礎的知識を得る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	導入編	アルファベットと発音、挨拶ことば	/	ロシアの国名の由来	
第2週	入門編 第1課	身近な物の名前(文房具、食器)	/	ロシア人の名前由来	
第3週	入門編 第2課	身近な物の名前(果物)、数字1-10	/	風俗習慣(1)	
第4週	入門編 第3課	数字11-20、名前のたずね方	/	風俗習慣(2)	
第5週	第1課	数字30-100、職業のたずね方	/	都市と気候(1)	
第6週	第2課(1)	数字30-1000、国籍のたずね方	/	都市と気候(2)	
第7週	第2課(2)	挨拶のしかた	/	ロシアの歴史(1)	
第8週	第2課(3)	年齢のたずね方	/	ロシアの歴史(2)	
第9週	第3課(1)	ты и выの使い分け、行為をたずねる表現	/	ロシアの歴史(3)	
第10週	第3課(2)	場所を訪ねる表現「どこに？」	/	ロシアの政治(1)	
第11週	第3課(3)	依頼の表現「-していいですか？」	/	ロシアの政治(2)	
第12週	第4課(1)	方向を訪ねる表現「どこへ？」	/	ロシアの経済(1)	
第13週	第4課(2)	時間の表現「いつ行ってきたのですか？」	/	ロシアの経済(2)	
第14週	第4課(3)	述語副詞の表現「-だ」	/	ロシアの宗教(1)	
第15週	第4課(4)	天気、日時、曜日のたずね方	/	ロシアの宗教(2)	
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	第5課(1)	日常行っている行為の表現(1)	/	ロシア文学(1)	
第17週	第5課(2)	日常行っている行為の表現(2)	/	ロシア文学(2)	
第18週	第5課(3)	日常行っている行為の表現(3)	/	ロシア音楽(1)	
第19週	第6課(1)	бытьを使った表現、時を表す副詞句(1)	/	ロシア音楽(2)	
第20週	第6課(2)	бытьを使った表現、時を表す副詞句(2)	/	ロシアバレエ(1)	
第21週	第6課(3)	義務を表す表現「-しなければならない」	/	ロシアバレエ(2)	
第22週	第6課(4)	感嘆表現(1)	/	ロシア映画(1)	
第23週	第7課(1)	感嘆表現(2)	/	ロシア映画(2)	
第24週	第7課(2)	依頼の表現(1)	/	スポーツと余暇(1)	
第25週	第7課(3)	依頼の表現(2)	/	スポーツと余暇(2)	
第26週	第7課(4)	感嘆表現(2) Какを使う表現	/	美術館、博物館(1)	
第27週	第8課(1)	感嘆表現(2) Чтоを使う表現	/	美術館、博物館(2)	
第28週	第8課(2)	誘いの表現「-しましょう」	/	ロシア民謡(1)	
第29週	第8課(3)	所有の表現(1)「-を持っています」	/	ロシア民謡(2)	
第30週	第8課(4)	所有の表現(2)「-があります」	/	ロシア民謡(3)	
後期期末試験	実施しない				
教科書	『新ロシア語教程』、狩野亨他著、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』、木村彰一他編著、博友社 / プリント配布				
参考図書	『2時間でわかる図解ロシアのしくみ』、小林和男著、中経出版				
評価方法	リスニング及び口頭試験30%、豆テスト及び課題20%、レポート50%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報コミュニケーション Computer Science and Manufacturing Systems	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	田代 均
授業概要	生産管理の基礎を情報科学、数理工学、システム工学と関連付けて理解する。				
到達目標	①工場、生産現場及び基礎的な生産管理手法を理解する。 ②システム、システム工学の定義及び基礎的なシステム工学の手法を理解する。 ③問題解決の合理的なアプローチ方法を身につける。 ④自ら考えて問題提起、解決する能力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-2). (E-2).				
履修上の注意	数学、情報科学の基礎を理解しておくことが必要。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		概要と授業ガイダンス		
第2週	生産管理の目的		製造業、工場、CS, Q, C, D, E		
第3週	生産管理の手法		かんばんシステム、MRP		
第4週	システムとシステム工学		システム、システム工学の定義		
第5週	グラフと行列によるシステム表現(1)		構造モデルのためのグラフ理論		
第6週	グラフと行列によるシステム表現(2)		ネットワークシステム		
第7週	前期中間試験				
第8週	創造工学の手法		KJ法、ブレインストーミング		
第9週	行列、行列式の基礎		固有値、固有ベクトル		
第10週	統計解析の基礎		データの標準化、分散、共分散、相関		
第11週	統計的手法による問題構造の同定		主成分分析、因子分析、クラスター分析		
第12週	構造モデル化による問題構造の同定		ISM法		
第13週	ものづくりの計画		工程のデータベース、リードタイム		
第14週	日程計画		日程計画		
第15週	負荷計画		負荷計画		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	生産手配の情報処理、進捗管理		情報処理、進捗管理		
第17週	生産と販売を結ぶ在庫管理		在庫の効果、管理		
第18週	在庫管理のシステム化		在庫計画		
第19週	在庫管理の工夫(1)		安全在庫、ランニングストック		
第20週	在庫管理の工夫(2)		在庫調達の簡略化、在庫の重点管理		
第21週	関連樹木法		関連樹木法		
第22週	後期中間試験				
第23週	スケジューリング		PERT		
第24週	システムモデルとしてのファジー集合(1)		ファジー集合		
第25週	システムモデルとしてのファジー集合(2)		ファジー推論		
第26週	生産管理の新たな動向(1)		ISO9000ファミリー、14000シリーズ		
第27週	生産管理の新たな動向(2)		ERP、アウトソーシング		
第28週	生産管理の新たな動向(3)		TQM、シックスシグマ		
第29週	生産管理の新たな動向(4)		ロジスティクス、SCM		
第30週	総括演習		これまで学習した内容のまとめ		
後期期末試験	実施する				
教科書	図解生産管理、田中一成、日本実業出版社 システム工学入門、寺野寿郎、共立出版				
参考図書	よくわかるこれからの生産管理、菅間正二、同文館出版 よくわかるこれからの品質管理、山田正美、同文館出版 システム工学とは何か、渡辺茂、須賀雅夫、日本放送出版協会				
評価方法	定期試験の成績を80%、レポート等の課題の成績を20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営学 Introduction to Management	4	2 * (30)	必修	前期 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	経営学を初めて学ぶ学生のための入門(総論)的な授業である。				
到達目標	①経営学説史に関する基礎的な知識を修得する。 ②経営組織理論に関する基礎的な知識を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1).				
履修上の注意	自学自習の確認方法:課題プリント等を学生に配布し,それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 企業理論(1) 企業理論(2) 経営学説史(1) 経営学説史(2) 経営学説史(3) 総合演習 経営学説史(4) 経営学説史(5) 経営組織論(1) 経営組織論(2) 経営組織論(3) 個別の経営理論(1) 個別の経営理論(2) 総合演習 実施する	授業の進め方およびレポートの書き方 企業の種類 株式会社の特徴と仕組み テイラー フォード ファヨール 確認テスト 人間関係論 行動科学 近代組織論 基本的な組織形態 様々な組織形態 人事管理論 日本的経営論 これまでの復習			
教科書	テキスト経営学(増補版), 井原久光, ミネルヴァ書房				
参考図書	ケースに学ぶ経営学, 東北大学経営学グループ, 有斐閣 経営管理, 塩次喜代明, 有斐閣 組織デザイン, 沼上幹, 日本経済新聞社 経営学入門, 榎原清則, 日本経済新聞社				
評価方法	定期試験70%, 確認テスト20%, 課題10%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人間関係論 Human Relations	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	組織心理学を基本として、個人、集団、組織の関係を多方面から学習する。				
到達目標	組織心理学の基本概念を身につけて欲しい。 ①キャリアの概念が分かり、図表を用いて説明ができる。 ②心理学入門で学んだ「動機づけ」の概念を発展させて、モチベーションの現代的理論が説明できる。 ③組織ストレスの態様が分かり、説明ができる。 ④集団の概要が分かり、「集団のありべきダークサイド」について図表を用いて説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3), (D-3).				
履修上の注意	日常の経済活動における個人、集団、組織に関心をもって欲しい。また、個人のキャリア設計に関する実習、発表を行うので留意すること。必要に応じて授業のまとめを提出してもらう。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 心理学の方法 オープン・システムとしての組織 社会性とキャリア モチベーションその1 モチベーションその2 前期中間試験 組織ストレス ジョブ・デザイン 自律性とプロフェッショナリズム コミュニケーションと意思決定 グループ・ダイナミクスその1 グループ・ダイナミクスその2 対人葛藤 これまでの復習 実施する キャリアデザイン 実習1 実習2 実習3 実習4 実習5 後期中間試験 リーダーシップ 組織文化 パワーと管理者その1 パワーと管理者その2 組織の革新その1 組織の革新その2 ケースを読む これまでの復習 実施する		授業の進め方 組織と人間 組織の成果 キャリア モチベーションの古典的理論 モチベーションの近代的理論 組織のなかのストレス ジョブデザインの手法 プロフェッショナリズム 意思決定 ホーソン研究 小集団の積極的活用 葛藤関係の再評価 個人のキャリア設計 個人のキャリア設計に関する実習 状況適合モデルの展開 組織文化の革新 パワー関係 管理者の役割 変革への抵抗と支持 組織デザインの方法		
教科書	『組織の心理学[新版]』田尾雅夫、有斐閣ブックス。配布資料。				
参考図書	『組織論』桑田耕太郎他、有斐閣アルマ。 『あなたは成功できるーセルフコーチング自己実現法7育5心3V法』佐藤安太、日経BP企画。				
評価方法	定期試験の成績80%、授業のまとめ20%で評価する。				

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
知的所有権 Intellectual Property		4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡部 順一
授業概要	創造性から生まれた新しい知恵を財産として権利化していく仕組みを学ぶ。					
到達目標	知的財産の基本概念をしっかりと身につけて、実社会でも活用できるようにする。 ①創造性について理解を深め、自らアイデアを創出する。 ②特許法上の発明が分かり、説明ができる。 ③特許の要件が分かり、説明ができる。 ④知的財産の基本概念が分かり、図表を用いて説明ができる。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-4), (D-3).					
履修上の注意	日常の経済活動なかで知的財産がどのように活用されているか関心をもって欲しい。必要に応じて課題を提出してもらおう。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 日常生活のなかの知的財産、知的財産法の発展等 発明と特許法、特許権取得の手続等 アイデアの創出その1 アイデアの創出その2 アイデアの創出その3 特許情報の調査その1 特許情報の調査その2 特許情報の調査その3 特許マップその1 特許マップその2 特許マップその3 特許を作成するその1 特許を作成するその2 特許を作成するその3 実施しない 特許の発表その1 特許の発表その2 特許の発表その3 実用新案権 商標その1 商標その2 意匠 技術移転その1 技術移転その2 技術移転その3 不正競争防止法 著作権その1 著作権その2 ケースを読む これまでの復習 実施する	授業の進め方について 知的財産権の意義と種類、特許法の意義と種類 発明の意義、特許を受ける権利等 自らアイデアを生み出す 自らアイデアを生み出す 自らアイデアを生み出す 特許情報、特許調査、特許公報、特許庁とは 特許電子図書館 特許電子図書館 特許マップとは 特許マップを作成する 自らのアイデアの特許とする 自らのアイデアを発表する 実用新案権とは 商標とは 企業経営における商標の効果・価値 意匠とは 技術移転と産業発展 研究開発と特許 技術移転の実務 不正競争防止法とは 著作権とは 著作権とビジネス				
教科書	配布資料(産業財産権標準テキスト『特許編』『商標編』『意匠編』『流通編』など)。					
参考図書	『産業財産権条文集』発明協会編、発明協会。『工業所有権法逐条解説[第16版]』特許庁編、発明協会。					
評価方法	定期試験30%、課題70%で評価する。					

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プレゼンテーション Presentation	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松本 行真
授業概要	最近では、様々な場面で発表する必要に迫られることが多い。実践を通して効果的なプレゼンテーションが実施できることを目指す。				
到達目標	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、効果的なプレゼンテーションが実施できる。プレゼンテーションソフトの使用法を理解し、適切に操作できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2), (D-3).				
履修上の注意	プレゼンテーションソフトの操作方法のみに頼ることなく、内容の充実したものとすること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	プレゼンテーションについて		意義と問題解決学習について		
第2週	過去の発表の閲覧		VODの活用と過去の発表		
第3週	発表機器		発表機器の歴史と仕組み		
第4週	発表内容と情報収集1		情報の質(一次情報と二次情報)と情報収集の方法		
第5週	発表内容と情報収集2		実際の調査の方法と種類		
第6週	スライド制作の方法1		タイトル・文字・図		
第7週	スライド制作の方法2		グラフ・グラフィック・マルチメディア		
第8週	発表の方法		声・目線・指示棒・間合いなど様々な方法		
第9週	スライドの制作1		パワーポイントの使い方(テンプレートなど)		
第10週	スライドの制作2		パワーポイントの使い方(アニメーションなど)		
第11週	相互・自己評価		相互評価の意義と目的とフィードバックについて		
第12週	1回目の発表1		コンピュータを利用した発表		
第13週	1回目の発表2		コンピュータを利用した発表		
第14週	1回目の発表3		コンピュータを利用した発表		
第15週	1回目の発表の評価		他者評価・自己評価		
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	レポート作成		フィードバックレポートの作成		
第17週	ネットプレゼンテーション1		ネットプレゼンテーションについて		
第18週	ネットプレゼンテーション2		ネットプレゼンテーションの作成		
第19週	発表の評価		フィードバックレポートによる反省と今後の発表について		
第20週	発表の準備1		情報収集		
第21週	発表の準備2		情報分析		
第22週	発表の準備3		スライドの作成		
第23週	発表の準備4		スライドの作成		
第24週	発表の準備5		練習		
第25週	2回目の発表1		コンピュータを利用した発表		
第26週	2回目の発表2		コンピュータを利用した発表		
第27週	2回目の発表3		コンピュータを利用した発表		
第28週	2回目の発表4		コンピュータを利用した発表		
第29週	2回目の発表の評価		他社評価・自己評価		
第30週	レポート作成		フィードバックレポートの作成		
後期期末試験	実施しない				
教科書	プレゼンテーションと効果的な表現、浅井宗海、SCC				
参考図書	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint 2003、実教出版 できる・使えるプレゼン術 ビジネス・プレゼンのすべての基本とメンタル・テクニック 5つのポイントですぐに身につく!、村松かすみ/著 中嶋秀隆/著 マット・シルバーマン/著、日本能率協会マネジメントセンター				
評価方法	発表60%、小テストおよび課題40%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
会計学 Accounting	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	渡部 美紀子
授業概要	ビジネスの言語といわれる会計を学ぶ。講義では、全経簿記2級以上の商業簿記を学習する。株式会社の経理一般の概要を把握することを目的とする。				
到達目標	①株式会社の基本的な会計処理が理解できる。 ②株式会社の財務諸表の作成ができる。 ③簿記能力検定試験2級の取得を目指し、検定レベルの問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (D-1).				
履修上の注意	講義時間以外の自己学習、特に復習と問題演習が必要不可欠である。簿記検定の過去問題にも積極的に取り組むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	イントロダクション 特殊商品売買(1) 特殊商品売買(2) 引当金 偶発債務 損益整理(1) 損益整理(2) 復習 決算 本支店会計(1) 本支店会計(2) 帳簿組織(1) 帳簿組織(2) 伝票 復習 実施する 株式会社の記帳 社債 税金(1) 税金(2) 財務諸表(1) 財務諸表(2) 第1問対策 復習 第2問対策(1) 第2問対策(2) 第3問対策 第4問対策 第5問対策 全経2級試験演習 復習 実施する	授業の進め方、各種検定試験について 荷為替、未着商品他 割賦販売、試用販売 引当金の処理 偶発債務の処理 費用、収益の繰延と見越 消耗品、棚卸減耗他 これまでの復習 精算表の作成 本店・支店間の取引 合併財務諸表の作成 現金出納帳、当座預金出納帳 仕入帳、売上帳 5伝票制 前期のまとめ 株式の発行、繰延資産、決算 社債の発行、償還 法人税、住民税 事業税、固定資産税等 損益計算書の作成 貸借対照表の作成 仕訳問題 これまでの復習 計算問題A, B, C 計算問題D, E 特殊仕訳帳 伝票問題 財務諸表作成問題 検定模擬試験 1年間のまとめ			
教科書	『基本商業簿記・下』、『完全分類 全経簿記、2級商業簿記』、『全経簿記 改訂ワークブック、2級商業簿記』英光社;配布プリント				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プログラミング言語 Programming Languages	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	プログラミング言語を用いて、簡単なプログラムを作成・実行し、プログラミングの基本技術を習得する。				
到達目標	基本制御構造を理解し、流れ図等で記述できること。 流れ図等を基にして、プログラムが作成できること。 配列について理解し、簡単なプログラムが作成できること。 オブジェクト指向を理解し、概念が説明できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (B-4). (D-2).				
履修上の注意	自分の頭で考えること。 実際に実行してみること。 論理設計を基に実際にプログラムを作成、実行することによって検証する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	プログラミングの基礎(1)	ソフトウェアの種類、OSの種類、言語処理系			
第2週	プログラミングの基礎(2)	基本制御構造、データ構造			
第3週	アルゴリズムの基礎(1)	アルゴリズムの記述方法、流れ図			
第4週	アルゴリズムの基礎(2)	基本制御構造			
第5週	アルゴリズムの基礎(3)	順次(逐次)処理			
第6週	アルゴリズムの基礎(4)	分岐(選択)処理			
第7週	前期中間試験				
第8週	アルゴリズムの基礎(5)	分岐(選択)処理			
第9週	アルゴリズムの基礎(6)	反復(繰り返し)処理			
第10週	アルゴリズムの基礎(7)	反復(繰り返し)処理			
第11週	アルゴリズムの基礎(8)	反復(繰り返し)処理			
第12週	アルゴリズムの基礎(9)	反復(繰り返し)処理			
第13週	データ構造の基礎(1)	1次元配列			
第14週	データ構造の基礎(2)	2次元配列			
第15週	データ構造の基礎(3)	配列の応用			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	文字列の処理(1)	文字列の定義			
第17週	文字列の処理(2)	文字列関数、文字列ステートメント			
第18週	グラフィックス(1)	図形の描画、座標系			
第19週	グラフィックス(2)	描画メソッド			
第20週	グラフィックス(3)	画像の取り扱い			
第21週	グラフィックス(4)	グラフィックスの応用			
第22週	後期中間試験				
第23週	課題演習	課題プログラムの作成			
第24週	ファイルの処理(1)	ファイルの種類、ファイル入出力			
第25週	ファイルの処理(2)	データファイルの利用方法			
第26週	総合演習(1)	演習問題			
第27週	総合演習(2)	演習問題			
第28週	総合演習(3)	演習問題			
第29週	その他の言語	C、C++、Java、各種スクリプト言語			
第30週	最新技術動向	オブジェクト指向言語の動向等			
後期期末試験	実施する				
教科書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院				
参考図書	実習 Visual Basic.NET-だれでもわかるプログラミング-、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
評価方法	定期試験の成績70%、課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
時事英語 Media English	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	内山 昭代
授業概要	アメリカ3大ネットワーク、ABCニュースを通して時事英語の語彙、文法、リスニングに習熟しコミュニケーション能力を高める。				
到達目標	(1)英語ニュースの聞き取りを通して生きた英語表現を身につける。 (2)ニュース英語の特徴である短い語彙に慣れる。 (3)テレビニュースの構成に習熟する。 (4)ニュースで得た情報をもとにディスカッションするコツを学ぶ。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	1. Inside North Korea (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第2週	1. The Battle for Ohio (2)	ニュースに関するディスカッション			
第3週	2. America's Pumpered Pets (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第4週	2. America's Pumpered Pets (2)	ニュースに関するディスカッション			
第5週	3. Pilgrimage to Rome (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第6週	3. Pilgrimage to Rome (2)	ニュースに関するディスカッション			
第7週	4. Fighting Junk Food in Schools (1)	グループディスカッション			
第8週	4. Fighting Junk Food in Schools (2)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第9週	5. Terri Schiavo Case (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第10週	5. Terri Schiavo Case (2)	ニュースに関するディスカッション			
第11週	6. Shark Fighters (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第12週	6. Shark Fighters (2)	ニュースに関するディスカッション			
第13週	7. Small Steps (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第14週	7. Small Steps (2)	ニュースに関するディスカッション			
第15週	8. Laughter: The Best Medicine (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	8. Laughter: The Best Medicine (2)	ニュースに関するディスカッション			
第17週	9. Measuring Success (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第18週	9. Measuring Success (2)	ニュースに関するディスカッション			
第19週	10. Girl Scout Cookies (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第20週	10. Girl Scout Cookies (2)	ニュースに関するディスカッション			
第21週	11. Selling Identities (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第22週	11. Selling Identities (2)	ニュースに関するディスカッション			
第23週	12. Pond Hockey (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第24週	12. Pond Hockey (2)	ニュースに関するディスカッション			
第25週	13. DNA Tests (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第26週	13. DNA Tests (2)	ニュースに関するディスカッション			
第27週	14. Woman and Science (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第28週	14. Woman and Science (2)	ニュースに関するディスカッション			
第29週	15. Border Patrol (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第30週	15. Border Patrol (2)	ニュースに関するディスカッション			
後期期末試験	実施する				
教科書	ABC World News 8、山根 繁/Kathleen Yamane、金星堂				
参考図書					
評価方法	定期試験90%、小テスト10%とし総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
確率統計 Statistics	4	2 * (30)	必修	後期 週 2 時間 B	森川 治
授業概要	確率概念の理解の下にデータ整理、推定および検定について学習する。				
到達目標	(1)各種の分布を理解し、分布表が使いこなせる。 (2)区間推定の原理を理解し、平均、分散等の区間推定ができる。 (3)検定の原理を理解し、平均、分散、適合度及び独立性の検定ができる。 (4)相関分析の原理を理解し、回帰直線、相関係数が計算できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3). (D-4).				
履修上の注意	常に情報統計の学習内容を復習し、問題を数多く解くこと。自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	確率論 確率分布(1) 確率分布(2) 推定(1) 推定(2) 推定(3) 後期中間試験 検定(1) 検定(2) 検定(3) 検定(4) 相関分析(1) 相関分析(2) 相関分析(3) 総合演習 実施する		全確率の定理、ベイズの定理の復習 二項分布、ポアソン分布の復習 正規分布の復習 点推定 母平均の区間推定 母分散の区間推定 母平均の検定 母分散の検定 適合度の検定 独立性の検定 回帰直線、相関係数 無相関の検定 相関分析の総合演習 まとめ		
教科書	確率統計、田河生長他著、大日本図書				
参考図書	すぐわかる統計解析、石村貞夫著、東京図書 すぐわかる多変量解析、石村貞夫著、東京図書				
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語 I Business English I	4	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	田代 均 渡部 美紀子
授業概要	(田代)日本紹介の英文ガイドブックと鉄鋼材料の英文教科書を読解して、ビジネス英語の基礎的な表現を学習する。(渡部)世界の常識、習慣等を英語で通読し、日本の常識、習慣との違いを認識する。				
到達目標	(田代)①基礎的なビジネス英語の読解力を身につける。 ②日本紹介、鉄鋼材料の基礎的な英語表現を理解する。 (渡部)①日本とは異なる文化を有する国が数多くあることを認識し、英語で理解することができる。 ②国際的にビジネスを遂行する際のコミュニケーションの関り方を自分なりの視点で考えることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	(田代)全員を指名するので予習してくること。(渡部)必ず予習の上、内容を踏まえた自分の考えをまとめてくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	(田代)イントロダクション 日本紹介(1)経済の成長 日本紹介(2)年功序列 日本紹介(3)企業別組合 鉄鋼材料(1)鋼とは 鉄鋼材料(2)鋼の状態変化-その1 鉄鋼材料(3)鋼の状態変化-その2 日本紹介(4)小集団活動(品質管理) 日本紹介(5)長寿国 日本紹介(6)教育 日本紹介(7)技術力 鉄鋼材料(4)鋼中のC, N-その1 鉄鋼材料(5)鋼中のC, N-その2 鉄鋼材料(6)鋼の実用例 総括演習 実施する (渡部)イントロダクション 世界の人々を知るための基礎知識(1) 世界の人々を知るための基礎知識(2) 味だけでは語れない世界の食習慣(1) 味だけでは語れない世界の食習慣(2) トイレにびっくり!世界の住まい どこの国でも「服装が人を表す」 制限だらけの世界の結婚と家族(1) 制限だらけの世界の結婚と家族(2) 1年が365日でない世界のカレンダー うっかりすると罰金、世界の街の習慣 世界のビジネスマンたち 和製も活躍、世界のスポーツ・娯楽 各国公共制度 総合復習 実施する	概要と授業ガイダンス 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 表現、専門用語、内容の理解 これまで学習した内容のまとめ 授業の進め方 外国人に好まれるあいさつとは?他 2/6は2月6日か6月2日か?他 米は日本の国民食か?他 ワリカン(ケチ)の証?他 家の中ではやっぱりあぐら他 タンクトップ、短パンはご法度他 清く正しい男女交際他 男と女、どっちがエライ?他 クリスマスの典型的な過ごし方とは他 改札のない駅とは?他 金曜の午後は予定を入れないこと他 相撲に負けない世界の国技他 税金を納めなくてもよい国他 後期のまとめ			
教科書	(田代)配布資料。(渡部)『英語で比べる「世界の常識」』足立恵子、講談社バイリンガルブックス;配付資料。				
参考図書	(田代)Talking about Japan、日鉄ヒューマンデベロップメント、アルク Steels, R.W.K.Honeycombe, Edward Arnold				
評価方法	(田代)定期試験の成績を80%、レポート等の課題の成績を20%で評価する。(渡部)定期試験80%、課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際関係論 International Relations	4	2 * (30)	必修	後期 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	複雑な国際関係における、主要な主体である国際企業の経営について学ぶ。				
到達目標	①企業の国際化理論に関する基礎的な知識を習得する。 ②国際企業の戦略に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1).				
履修上の注意	自学自習の確認方法:課題プリント等を学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 国際経営とは 多国籍企業とは 日本企業の国際経営 国際経営の理論(1) 国際経営の理論(2) 総合演習 国際経営の理論(3) 国際経営の理論(4) 国際マーケティング 海外生産 海外研究開発 国際経営組織 国際戦略提携 総合演習 実施する		授業の進め方およびレポートの書き方 国内経営と国際経営 多国籍企業の定義 日本多国籍企業の特徴 ハイマー理論 プロダクト・サイクル理論 確認テスト 内部化理論 最近の理論動向 輸出マーケティング, 製品輸入, 国際調達 海外生産の発展と日本の生産システム 技術移転, 海外研究開発の分析枠組み 組織構造と所有政策 国際戦略提携の理論と実際 これまでの復習		
教科書	国際経営(新版), 吉原英樹, 有斐閣				
参考図書	国際経営論への招待, 吉原英樹, 有斐閣 理論とケースで学ぶ国際ビジネス, 江夏健一・桑名義晴, 同文館				
評価方法	定期試験70%, 確認テスト20%, 課題10%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報特論 I Information Seminar I	4	1 (30)	選択	前期 週 2 時間 C	島村 浩
授業概要	現在の情報技術の基盤となっている画像処理技術とネットワーク技術についてコース分けして学習する。				
到達目標	画像処理技術の基礎を理解し、簡単な処理を行える。 ネットワーク技術の基礎を理解し、簡単な設定が行える。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (B-3). (B-4).				
履修上の注意	理論を実践で確認すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	画像処理の基礎(1)/ネットワークの基礎(1) 画像処理の基礎(2)/ネットワークの基礎(2) 画像処理の基礎(3)/ネットワークの基礎(3) 画像処理の基礎(4)/ネットワークの基礎(4) 画像処理の基礎(5)/ネットワークの基礎(5) 画像処理実習(1)/ネットワーク構築実習(1) 画像処理実習(2)/ネットワーク構築実習(2) 画像処理の基礎(6)/ネットワークの基礎(6) 画像処理の基礎(7)/ネットワークの基礎(7) 画像処理の基礎(8)/ネットワークの基礎(8) 画像処理の基礎(9)/ネットワークの基礎(9) 画像処理の基礎(10)/ネットワークの基礎(10) 画像処理課題(1)/ネットワーク構築課題(1) 画像処理課題(2)/ネットワーク構築課題(2) 画像処理課題(3)/ネットワーク構築課題(3) 実施しない		座標系、モデル/ネットワークの種類 光学モデル/インターネット、トポロジー 画素、濃淡変換/プロトコル、LAN、イーサネット フィルタリング/ネットワークアドレス モデリング/ネットワーク装置の種類 基本操作/ケーブル作成技術 基本操作/ネットワーク装置の接続技術 レンダリング/プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP アニメーション/ネットワーク層、ルーティング 画像処理基本技術/トランスポート層 入出力装置/インターネットのサービス システムと規格/DNS、HTTP、SMTP、POP 実習課題作成/ネットワーク設計 実習課題作成/機器の接続、設定、動作確認 まとめ		
教科書	画像処理技術:ビジュアル情報処理、CG-ARTS協会 ネットワーク技術:ネットワークテキスト基礎編、ウィネット				
参考図書					
評価方法	小テスト40%、課題30%および実技30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
実務研修 Outside Practice	4	1	選択	夏季休業中 C	島村 浩
授業概要	長期休業中の実務研修。 企業等の現場での就業体験を通じて、専門分野における高度な知識・技術に触れながら、実務能力を高める。				
到達目標	実践的な仕事感覚を向上させる。 働くことに対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 現場での就業体験により、確かな職業観を形成することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2).(D-2).(D-4).(F-1).(F-2).(F-3).				
履修上の注意	進路の方向性を基にして、受け入れ先を選ぶこと。 社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先希望調査 ・ 実習先との調整 ・ 実習先の決定 ・ 実習（夏季休業中、2週間程度） ・ 実習報告書提出 ・ 実習報告会（口頭発表あるいはポスターセッション） 				
教科書					
補助教科書					
参考図書					
評価方法	評価は、実習先からの実習記録票、実習報告書、および実習報告会における発表等の内容を総合的に評価して合否を判定する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
卒業研究 Graduation Research	5	8 (240)	必修	通年 週 8 時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	5年間の学習の成果を基に、担当教員の指導により学生の興味と好ましい資質の伸展をはかり、探索的な学習を通じて問題解決能力を育成する。				
到達目標	受動的な学習態度ではなく、問題を自ら探して見つけるような積極的かつ自発的な取り組みができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-4).				
履修上の注意	各テーマについて指導教員より指示がある。				
授業計画 学生は各研究室に配属され、下記のようなテーマにしたがって授業を進める。最後にテーマごとの報告書を作成する。また、卒業研究発表会において研究成果を発表する。平成18年度のテーマは以下の通りである。					
<ul style="list-style-type: none"> ・民話アニメーション制作『猿若丸』 ・スーツを身近に活用するスタイリング ・進化ゲームによるレモン(中古車)市場の分析 ・ハイパー進化ゲームについて ・プロ野球ストライキのゲーム論的考察 ・女性の化粧行動に関する一考察 ・結婚式場の現状と結婚式会場 ・変化対応に基づいたいわき市のコンビニエンス・ストアのマーケティング ・デジタルオーディオ機器の顧客満足度についての一考察～Apple 社と SONY の比較～ ・わかりやすいマニュアルによるロイヤリティの向上～携帯電話～ ・顧客満足度の視点から分析した板チョコレートの品質比較評価 ・ワーウィック社製ベースギターの生産販売戦略に関する一考察 ・地方都市の都市化についての一考察～福島県いわき市・郡山市を事例に～ ・いわき市内における小中学校の統廃合に関する一考察 ・病院の立地に関する一考察～福島県における事例～ ・地域振興としての観光政策～いわき湯本温泉を事例に～ ・いわき市の幼稚園・保育所の立地について ・進化論に関する一考察 ・アメリカンジョークに関する一考察 ・ネーミングの歴史的変遷 ・大企業の粉飾決済に関する一考察 ・地域ブランドに関する一考察 ・市町村合併に関する一考察 ・音楽流通の多様化に関する一考察 ・e-learning におけるハイビジョン&モバイル教材配信のためのシステム構築 ・渡り鳥(白鳥)を題材とした総合学習向けマルチメディア地域教材の製作 ・福島高専学生会活動(高専祭・部活動等)の WEB サイト更新における CMS の活用 ・日本人のアイデンティティに関する一考察～家庭教育の中の武士道思想を指標として～ ・読書におけるより良い情緒育成を目指して～福島高専生を事例として～ ・日本文化の特異性～日米間 ANIME・MANGA の異文化事情～ ・外国人の日本語理解に役立つ辞書の在り方 ・B&Lのボライトネス理論から見た日常会話の分析 ・日本語教材「オノマトペかるた」の制作 ・クレイアニメーションによる英語教材の制作と提案 ・進化ゲームと模倣ダイナミクス ・ホテリングモデルについて ・高齢化が進む今、高齢者マーケティングの重要性 ・経済的観点から分析する女性下着と社会進出 ・未来を表す be going to の歴史的確立の過程 ・日本文学翻訳研究 ・出版流通チャンネル政策に関する一考察 ・老人ホームの誘致に関する一考察 					
教科書					
参考図書					
評価方法	卒業研究報告を 80%、プレゼンテーションを 20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
パブリック・スピーキングⅡ Public Speaking Ⅱ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	大森 房子
授業概要	各トピックに関するリスニングとリーディングを通してさまざまな語彙・表現に習熟し、各自の意見を発表する。また、トピックに関する視点の異なる資料を読むことで語彙力を養成する。				
到達目標	(1) ディクテーションを通して英語のリズムとプロミネンスに習熟する。 (2) テキストのパスセージに出てくる重要表現に加えて、関連する語彙を学ぶ。 (3) プレゼンテーション構成のためにキーワードを使うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	テキストのパスセージや資料を、辞書を使って意味を調べ、予習してくる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unit 10 Women's Rights (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第2週	Unit 10 Women's Rights (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第3週	Unit 11 Buy This, Buy That! (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第4週	Unit 11 Buy This, Buy That! (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第5週	Unit 12 On the Job (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第6週	Unit 12 On the Job (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第7週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と語彙の補充			
第8週	プレゼンテーションの準備(2)	原稿作成			
第9週	プレゼンテーションの準備(3)	トピックに関する視点の確認と原稿作成			
第10週	プレゼンテーションの実施	質疑応答を通して理解を深める			
第11週	Unit 13 No Strings Attached (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第12週	Unit 13 No Strings Attached (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第13週	14 Child Abuse (1)	トピックに関する資料収集と原稿作成			
第14週	Unit 14 Child Abuse (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第15週	Unit 15 Caring about Others (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 15 Caring about Others (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第17週	プレゼンテーションの準備(1)	トピックに関する資料収集と語彙の補充			
第18週	プレゼンテーションの準備(2)	トピックに関する視点の確認と原稿作成			
第19週	プレゼンテーションの準備(3)	原稿作成			
第20週	プレゼンテーションの実施	質疑応答を通して理解を深める			
第21週	Unit 16 Read All about it! (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第22週	Unit 16 Read All about it! (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第23週	Unit 17 Is TV Good for You? (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第24週	Unit 17 Is TV Good for You? (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第25週	Unit 18 Taking Access for Granted (1)	トピックの内容理解、文法、語彙の習熟			
第26週	Unit 18 Taking Access for Granted (2)	プレゼンテーションプランを作成する			
第27週	プレゼンテーションの準備	トピックに関する資料収集と語彙の補充			
第28週	プレゼンテーションの準備(2)	トピックに関する視点の確認と原稿作成			
第29週	プレゼンテーションの実施	質問、コメントをし理解を深める			
第30週	一年間のまとめ	重要表現の確認			
後期期末試験	実施する				
教科書	昨年パブリック・プレゼンテーションⅠで使用した教科書 (Presenting Different Opinions、Richard McMahon 著 南雲堂)を継続して使用する。				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題や小テスト30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス・ライティングⅡ Business Writing II	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡辺 エリカ
授業概要	様々なビジネスの場に使われる英語表現を、ライティングを通じて身に着ける。英語でビジネス文書を作成する場合に役立てるよう演習も行う。				
到達目標	①英語でのビジネス文書が作成できる。 ②プレゼンテーションのサインポストに習熟し、論理的表現ができる。 ③統計の数値やグラフの変化を英語で表現できる。 ④ビジネス・プレゼンテーションに役立つライティング表現が身に付く。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). JABEE基準1(1)との対応:(f).				
履修上の注意	様々なビジネス現場での英語表現が身につくよう実践を行う。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	1. Introductions 2. continued 3. Arranging meeting 4. continued 5. Discussing Travel Plans 6. continued 7. Making inquiries 8. continued 9. Placing orders 10. continued 11. Responding to orders 12. continued 13. Making payments 14. continued 15. Case Studies 実施しない 16. Complaints 17. continued 18. Review 19. Review 20. Checking progress 21. continued 22. Interoffice memos 23. continued 24. Discussing Proposals 25. continued 26. Reports 27. continued 28. continued 29. Case Studies 30. Review and Conclusion 実施しない	Introducing yourself and work experience writing a cover letter and resume Suggesting and agreeing to a meeting Changeng arrangements for a meeting Writing out travel plans Writing an itinerary Inquiring about products or services Describing your company Ordering and arranging delivery Writing a cover letter Acknowledging an order for goods/passive voice Dealing with poblems/solutions Informing about and acknowledging payments Using the conditional/reminders Introduçing and explaining a problem Suggesting solutions Checking and cause and effect Writing about cause and effect Write a short memo/announce recent events Announce future events/make formal requests 無関係な質問を受けたら Asking for and giving opinions Plan and write a short report Give reasons for past actions Describing graphs/charts; recommending			
教科書	Writing for the Real World, student book 2;Oxford University Press				
参考図書					
評価方法	Report90%、Mini test 10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報メディア演習 Information Media Literacy Practice	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	「ニュース」というメディアの内容に注目し、現代社会におけるメディアの特性、役割、効果を考察する。				
到達目標	(1)メディア・リテラシーを理解し、ニュースを批判的に読める。 (2)各新聞社の社説を読み比べることができる。 (3)各新聞社の記事の内容分析ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (D-4). (F-2).				
履修上の注意	メディアを比較しつつ、「ニュース」を多角的に読むよう努める。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	ガイダンス		情報メディアの復習		
第2週	総合演習(1)		最近のニュース、社説を読む		
第3週	総合演習(2)		最近のニュース、社説を読む		
第4週	総合演習(3)		最近のニュース、社説を読む		
第5週	総合演習(4)		最近のニュース、社説を読む		
第6週	総合演習(5)		最近のニュース、社説を読む		
第7週	前期中間試験				
第8週	ニュースの内容分析(1)		内容分析研究とは何か		
第9週	ニュースの内容分析(2)		内容分析の研究姿勢		
第10週	ニュースの内容分析(3)		内容分析で何が明らかになるか		
第11週	総合演習(6)		最近のニュース、社説を読む		
第12週	総合演習(7)		最近のニュース、社説を読む		
第13週	ニュースの内容分析(4)		内容分析のレポートを読む		
第14週	ニュースの内容分析(5)		内容分析のレポートを読む		
第15週	総合演習(8)		前期のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	ニュースの内容分析(6)		発表討議		
第17週	ニュースの内容分析(7)		発表討議		
第18週	ニュースの内容分析(8)		発表討議		
第19週	ニュースの内容分析(9)		発表討議		
第20週	ニュースの内容分析(10)		発表討議		
第21週	総合演習(9)		最近のニュース、社説を読む		
第22週	総合演習(10)		最近のニュース、社説を読む		
第23週	事件報道(1)		ニュース番組の構成		
第24週	事件報道(2)		報道と人権		
第25週	事件報道(3)		倫理基準を考える		
第26週	事件報道(4)		松本サリン事件を考えるⅠ		
第27週	事件報道(5)		松本サリン事件を考えるⅡ		
第28週	総合演習(11)		最近のニュース、社説を読む		
第29週	総合演習(12)		最近のニュース、社説を読む		
第30週	総合演習(13)		最近のニュース、社説を読む		
後期期末試験	実施する		後期のまとめ		
教科書	現代ニュース論、大石裕著、有斐閣				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、レポート発表30%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
企業論 Current Issues in Companies	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	遠原 智文
授業概要	多様な企業理論のうち、経営戦略論と中小企業論について学ぶ。				
到達目標	①古典的な経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ②最新の経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ③戦後日本の中小企業の発展に関する基礎的な知識を習得する。 ④戦後日本の中小企業政策に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1).				
履修上の注意	夏休みに、レポートを作成してもらい、その内容を発表してもらう。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方およびレポートの書き方		
第2週	経営戦略とは		何をいかに学ぶか		
第3週	事業領域の定義		「ドメイン」という考え方		
第4週	戦略の策定(1)		企業/事業戦略の策定		
第5週	戦略の策定(2)		外部環境の分析:一般環境		
第6週	戦略の策定(3)		外部環境の分析:タスク環境		
第7週	総合演習		確認テスト		
第8週	戦略の策定(4)		内部環境の分析		
第9週	競争の戦略		基本戦略		
第10週	新規事業創造の戦略		戦略代替案		
第11週	ネットワーク戦略		新しい組織への動き		
第12週	グローバル戦略		多様な環境への対応		
第13週	地域企業の戦略		地域社会の中で		
第14週	経営戦略と社会		戦略的社会性とは何か		
第15週	総合演習		前期の復習		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	課題発表		課題発表		
第17週	課題発表		課題発表		
第18週	課題発表		課題発表		
第19週	中小企業とは		中小企業の定義と特徴		
第20週	戦後日本の中小企業の発展(1)		戦後復興		
第21週	戦後日本の中小企業の発展(2)		高度成長		
第22週	戦後日本の中小企業の発展(3)		知識集約化・減速経済化		
第23週	戦後日本の中小企業の発展(4)		90年代大不況		
第24週	もの作りと中小企業(1)		下請取引と下請系列関係		
第25週	もの作りと中小企業(2)		産業集積、日本工業の構造変化		
第26週	戦後日本の中小企業政策(1)		経済民主化型政策		
第27週	戦後日本の中小企業政策(2)		産業構造政策型中小企業政策		
第28週	戦後日本の中小企業政策(3)		産業構造政策型中小企業政策の新展開		
第29週	戦後日本の中小企業政策(4)		競争政策型中小企業政策		
第30週	総合演習		後期の復習		
後期期末試験	実施する				
教科書	経営戦略(新版), 大滝精一(他), 有斐閣アルマ 21世紀型中小企業論(新版), 渡辺幸男(他), 有斐閣				
参考図書	経営学入門(下), 榎原清則, 日本経済新聞社 現代中小企業経営論, 川上義明(編著), 税務経理協会				
評価方法	定期試験70%, 確認テスト15%, 課題15%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際経済 International Economics	5	2 * (30)	必修	前期 週 2 時間 B	芥川 一則
授業概要	国際的な経済取引が存在する経済理論の基本を学習する。具体的には、マンデル＝フレミング・モデルについて取り上げる。				
到達目標	①経済学の基本理論を理解できる。 ②現実の経済状況が把握できる。 ③経済問題が理解できる。 ④経済問題に対して自分の意見を述べられる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1), (D-3).				
履修上の注意	自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第 10週 第 11週 第 12週 第 13週 第 14週 第 15週 前期末試験	資本と財貨の国際循環 小国開放経済の貯蓄と投資 為替レート 大国開放経済 景気変動 IS-LMモデル(1) IS-LMモデル(2) IS-LMモデル(3) マンデル＝フレミング・モデル(1) マンデル＝フレミング・モデル(2) マンデル＝フレミング・モデル(3) マンデル＝フレミング・モデル(4) マンデル＝フレミング・モデル(5) 前期総合復習(1) 前期総合復習(2) 実施する	対外純投資と貿易収支 資本移動と世界利子率 名目為替レートと実質為替レート 対外純投資 総需要－総供給モデル 財市場とIS曲線 貨幣市場とLM曲線 金融政策と財政政策の相互作用 資本の完全移動を伴う小国開放経済 変動為替レート制下の小国開放経済 固定為替レート制下の小国開放経済 利子率格差(カントリーリスク) 変動為替レート制と固定為替レート制の比較 専門用語の確認 専門用語の確認			
教科書	マンキューマクロ経済学 I 入門篇、N・グレゴリー・マンキュー著;プリント資料他				
参考図書	入門マクロ経済学、井堀利宏著、新世社				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マーケティング Introduction to Marketing	5	2 * (30)	必修	後期 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	マーケティングの意義について学ぶ。また、企業経営にマーケティングをどのように取り入れていくのかについて学習していく。さらに、市場とは何かについて理解を深める。				
到達目標	マーケティングの基本的概念を身につけて欲しい。 ①マーケティング4Pの概念が分かり、説明ができる。 ②競争が規定する産業の収益性を理解し、図表を用いて説明ができる。 ③ライフサイクルの概念が分かり、図表を用いて説明ができる。 ④ブランドの概念が分かり、説明ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-4), (D-3).				
履修上の注意	市場におけるマーケティングについて、関心を持って欲しい。 自学学習の確認方法;「授業の予習」あるいは「授業の復習」などの課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	マーケティング戦略への招待、事業機会の選択 事業領域の選択 標的市場の選択 市場データ分析 消費者行動分析 競争分析、流通分析 後期中間試験 製品対応 価格対応 コミュニケーション対応 流通チャネル対応 競争対応 サービス・マーケティング ソーシャル・マーケティング 関係性マーケティング 実施する	マーケティング4P、製品ポートフォリオ戦略 事業の定義 セグメンテーション、ターゲット市場 データ収集の方法 SORモデル研究、情報処理研究、ライフスタイル研究 5つの競争要因、戦略グループ、チャネル戦略 マーケティングの中核としての製品戦略 価格設定のマーケティング戦略 消費者への効果的な情報伝達 流通環境の変化に対応したチャネル戦略 競争優位のための戦略対応 サービス業のマーケティング戦略 マーケティングと社会のかかわり インタラクション重視のマーケティング			
教科書	『マーケティング戦略(第3版)』和田充夫他、有斐閣アルマ。				
参考図書	『ゼミナール マーケティング入門』石井淳蔵他、日本経済新聞社。				
評価方法	定期試験70%、課題の提出30%で評価する。				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
視聴覚情報概論 Human Information Processing	5	2 * (30)	必修	前期 週 2 時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会が進む中で、最も情報量の多い視覚情報を中心に、聴覚情報を効果的に用いたメディアが今後重要な媒体となる。人の視聴覚の生理学的、心理学的しくみと脳が知覚する基礎知識を学び、視覚の不思議な現象を取り入れた様々な造形、平面錯視、立体錯視を演習も取り入れて学習する。				
到達目標	①人がモノを視覚的に認識するしくみ、音を認識するしくみが理解できる。 ②パターン、色彩、錯視の原理等を学び、錯視を実際に制作することで理解が深まる。 ③音のイメージ制作と色彩構成演習を行い、視聴覚媒体制作が実習できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-3). JABEE基準1(1)との対応:				
履修上の注意	人の眼の構造、耳の構造、可視光域と可聴音域、視聴覚情報が脳に届き知覚するメカニズム、色彩知覚、錯視等の基礎を理解、応用、制作できるよう留意する。 自学自習の確認方法:課題に対する作品を定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	環境情報 視覚特性 聴覚特性 かたちと大きさの知覚と性質 幾何学的錯視 視覚と心理 視覚と心理 神経伝達時間差と色彩演習 色彩と心理演習 色彩と心理演習 色彩と心理演習 音のイメージと配色演習 音のイメージと配色演習 音楽・映像とメディア 音楽・映像とメディア 実施しない	環境情報の範囲と刺激、感覚・知覚・認知と神経系 眼の構造と網膜における情報処理、視覚神経系の構造 耳の構造と聴覚神経の構造:中枢機構、聴覚連合皮質 図と地:ルビンの壺、エッシャー、主観的輪郭、カニツア図形の実例制作 ジャストロー図形、遠近法錯視、三次元空間の錯視 幾何学的錯視演習、制作 不可能形態の錯視 ベンハムのごま制作、無彩色から認識できる色彩効果 縁辺対比とハーモンドット、ネオンカラー現象 色彩イメージと配色、色彩の誘目性 色彩イメージと色彩構成 音イメージと色彩構成 音イメージと色彩構成 音楽イメージとメディア制作 音楽イメージとメディア制作			
教科書	視知覚,松田隆夫,培風館				
参考図書	錯視の造形-メトリックス-,白石和也,ダヴィッド社 色彩,大井義雄他,日本色彩研究所				
評価方法	演習課題作品提出70%,レポート提出30%で評価				

(注)*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
言語文化 Language and Culture	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	松江 俊一
授業概要	文化とは文字どおり文字が化けた姿である。無文字→文字→文化→文明の流れに立脚しつつ言語を座標軸に人間現象について総合的に学ぶ。				
到達目標	①古代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ②中世の歴史と言語文化の関係を把握する。 ③近現代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ④現代日本人のエスニシティを認識する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3), (D-4).				
履修上の注意	文化は人間の精神活動の結果であり、その中心に言語がある。これまでに学んできたあらゆる知識を言語を中心に再構築してみよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ことばと文化(1)	ことばの構造、文化の構造			
第2週	ことばと文化(2)	文字と言語の関係、物とことば、かくれた基準			
第3週	日本人の成立(1)	考古学的に見た日本人(1)			
第4週	日本人の成立(2)	考古学的に見た日本人(2)			
第5週	日本人の成立(3)	卑弥呼について、倭の成立			
第6週	日本の神話(1)	イザナギとイザナミ、日本人の穢れ思想について			
第7週	前期中間試験				
第8週	日本の神話(2)	アマテラス・スサノオ・オオクニヌシ、日本人の怨霊思想について			
第9週	古代・中世の言霊思想(1)	聖徳太子の「和」について、東大寺の大仏の建立について			
第10週	古代・中世の言霊思想(2)	平安京の遷都について、武士の出現と貴族との関係			
第11週	古代・中世の言霊思想(3)	漢字とひらがな、和文の創造			
第12週	古代・中世の言霊思想(4)	万葉集、古今和歌集、土佐日記、源氏物語に共通すること			
第13週	古代・中世の言霊思想(5)	神道と仏教(1)神仏習合			
第14週	古代・中世の言霊思想と文化(6)	神道と仏教(2)日本人の宗教観			
第15週	古代・中世の言霊思想(7)	総合復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	江戸期の言語文化(1)	蘭学について、オランダ商館の役割			
第17週	江戸期の言語文化(2)	本草学について、博物学の発展の形態(西洋の博物学との対比)			
第18週	江戸期の言語文化(3)	ケンペル・ツェンペリ・シーボルトについて			
第19週	幕末・明治の言語文化(1)	幕末情報ネットワーク			
第20週	幕末・明治の言語文化(2)	五箇条の御誓文の意味(穢れ思想、言霊思想の再確認)			
第21週	幕末・明治の言語文化(3)	江戸末期〜明治期における外国語の日本語翻訳について			
第22週	後期中間試験				
第23週	幕末・明治の言語文化(4)	福沢諭吉、西周、正岡子規、夏目漱石について			
第24週	現代日本の言語文化(1)	韓国の言語事情と日本語との比較			
第25週	現代日本の言語文化(2)	ピジンとクレオール			
第26週	現代日本の言語文化(3)	日本人の名前の特徴(1)			
第27週	現代日本の言語文化(4)	日本人の名前の特徴(2)			
第28週	現代日本の言語文化(5)	言葉の言い換え、差別用語			
第29週	現代日本の言語文化(6)	現代人の穢れ思想、言霊思想			
第30週	現代日本の言語文化(7)	総合復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	配布資料				
参考図書	『ことばと文化』鈴木孝夫著、岩波書店 / 『閉ざされた言語日本語の世界』鈴木孝夫著、新潮社 / 『日本語はいかにつくられたか』小池清治著、筑摩書房 / 『古事記(上)全訳注』次田真幸著、講談社 その他講義中に指示する。				
評価方法	筆記試験70%、小テスト、課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際金融論 Topics International Finance	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	国際金融の理論、現状、政策、歴史を体系的に学び、ドル、ユーロ、円の動向について現代的視点から理解すること。				
到達目標	①国際金融の理論について理解できる。 ②国際金融の歴史を理解できる。 ③国際金融の現状および政策を把握できる。 ④変貌著しい国際金融の姿を総合的・体系的に捉えることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (D-1).				
履修上の注意	新聞に毎日目を通し、世界で起こっている出来事に関心を持つこと。世界的なニュースと自分の生活との関連を考えること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	用語の説明と授業の概要			
第2週	国際通貨と決済システム	貨幣、通貨と銀行間決済システム			
第3週	国際決済と外国為替	内国為替と外国為替			
第4週	国際収支と国際収支表	国際収支の概念と国際収支表			
第5週	国際収支と国民経済	国民所得勘定、開放経済における所得			
第6週	外国為替市場	外国為替市場の構成と銀行間市場			
第7週	前期中間試験				
第8週	為替取引と為替相場	直物相場と先物相場等			
第9週	国際通貨	国際通貨の機能と選択			
第10週	国際金融市場	国際金融市場の意義と構成			
第11週	伝統的市場	伝統的市場の体系と展開過程			
第12週	ユーロ市場とデリバティブ市場	ユーロ市場、デリバティブ市場の機能			
第13週	企業の国際化と国際金融	企業の国際化と企業金融の国際化			
第14週	金融機関の国際化と国際業務	銀行・証券業務の国際化			
第15週	通貨当局の為替政策	為替政策と金融・財政政策			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	金融リスクの国際的管理	金融リスクの分類とリスク管理			
第17週	変動相場制	変動相場制の理論と現実			
第18週	国際政策協調	経済政策の国際協調			
第19週	発展途上国と開発金融	南北問題と国際金融			
第20週	市場経済移行と通貨・金融問題	社会主義国の市場経済移行			
第21週	中国の経済発展の可能性	製造業立国としての中国の位置			
第22週	後期中間試験				
第23週	変容する国際金融機関	IMFの改革と貧困の削減			
第24週	国際金本位制とポンド体制	金本位制、ポンド体制			
第25週	IMF体制	IMF体制の成立と発展			
第26週	EUの通貨統合	欧州通貨統合の歴史的背景			
第27週	ユーロの対外的側面	国際通貨としてのユーロ			
第28週	円の国際化と日本版ビックバン	日本版ビックバン			
第29週	アジアの金融・通貨危機とその影響	アジア諸国の為替制度と日本の役割			
第30週	国際通貨体制の現状と将来	21世紀の国際通貨制度			
後期期末試験	実施する				
教科書	『現代国際金融論[新版]』上川孝夫他、有斐閣ブックス				
参考図書					
評価方法	定期試験80%, 課題20%で総合的に評価する。				

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
広告・広報メディア概論 Advertisement, Public Relation and Media		5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	広告は、最古のペブルスに記載されたものから現代のネット上のインタラクティブな広告まで、人類の歴史と共に歩んだ情報文化の側面を持つ。その社会的意義と重要性を認識し、広告特性、広告目的、広告媒体とその特徴を知って、広告計画から広告制作に至るまでの演習を行う。					
到達目標	①広告の役割と基礎知識が理解できる。 ②生活者(消費者)に伝達する情報技術を身につけることができる。 ③広告主の立場からのメディア選択の重要性が理解できる。 ④具体的な広告計画からメディア特性に合った広告制作が実習できる。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応: (E-3). JABEE基準1(1)との対応:					
履修上の注意	広告・広報活動が社会へ及ぼす影響, 社会的責任, 様々なメディアの特性と最適な選択の方法に留意する。企業が行う広告計画から広告原稿制作, プレゼンテーションができるよう留意する。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週	広告の役割と種類	広告の役割と様々な広告。求職新聞広告制作				
第2週	広告媒体	四大媒体と新聞広告の特徴-広告スペース・広告料金				
第3週	広告媒体	新聞広告とパブリシティ広告				
第4週	広告媒体	四大媒体, 雑誌広告の特徴-広告スペース・広告料金				
第5週	広告媒体	四大媒体, ラジオ媒体の特徴と電波・TV広告の特徴				
第6週	広告媒体	車内広告・屋外広告/ニューメディア・SP				
第7週	前期中間試験	広告の役割, 社会的意義, 媒体特徴, 掲載サイズ料金				
第8週	広告分析・批評	新聞広告を紙面から選択, 分析, レポート制作				
第9週	広告分析・批評	雑誌広告を誌面から選択, 分析, レポート制作				
第10週	広告分析・批評	TVCM-海外習作CMの鑑賞, 分析, レポート制作				
第11週	広告分析・批評	TVCM-日本のCM鑑賞, 分析, レポート制作				
第12週	広告コンセプト・訴求効果	広告コンセプトの重要性と訴求効果				
第13週	広告効果・PL法と広告規制	広告効果とPL法等の広告規制				
第14週	広告計画	広告戦略の基本と媒体戦略による広告実務				
第15週	広告計画	広告計画と広告実務				
前期期末試験	実施する					
後期 第16週	広告制作	商品を特定した商品広告計画と広告制作				
第17週	広告制作	商品広告制作と企業研究, 広告コンセプト				
第18週	広告制作	広告コンセプトと訴求対象, 媒体選択				
第19週	広告制作	新聞広告制作-広告スペースと効果的なデザイン				
第20週	広告制作	雑誌広告制作-広告表現とプレゼンテーション				
第21週	広告制作	TVCM制作-絵コンテとデザイン				
第22週	広告制作	TVCM制作-絵コンテの表現, オーディオ演出				
第23週	広告制作	スライド制作-企業と商品の広告				
第24週	広告制作	スライド制作-商品の媒体計画				
第25週	広告制作	スライド制作-媒体別広告制作				
第26週	広告制作	スライド制作-媒体別広告制作				
第27週	広告制作	スライド制作-媒体別広告制作				
第28週	プレゼンテーション	広告制作者のプレゼンテーション				
第29週	プレゼンテーション	広告制作者のプレゼンテーション				
第30週	プレゼンテーション	広告制作者のプレゼンテーション				
後期期末試験	実施しない					
教科書	-ビジュアル-広告の基本, 野口智雄, 日本経済新聞社 よくわかる広告・宣伝, 相原博之他1名; 日本能率協会マネジメントセンター					
参考図書	広告入門, 梶山皓, 日本経済新聞社					
評価方法	前期は定期試験成績70%, 課題・レポート提出30% 後期は課題作品提出70%, レポート提出20%, プレゼンテーション10%, で評価する					

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
貿易実務 Trading Practice		5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	国民生活の維持と国内産業のために不可欠な国際貿易の仕組みを理解し、実務文書の把握の仕方・書き方を学ぶ。					
到達目標	①貿易実務検定C級レベルの実務知識を習得する。 ②貿易実務検定C級レベルの実務英語を習得する。 ③輸出入通関の基礎知識を習得する。 ④支障なく輸入ビジネスができるための実務知識を習得する。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1).					
履修上の注意	毎回の授業をしっかりと理解するために復習を必ず行うこと。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週	国際貿易体制と日本(1)	貿易と環境、日本の貿易の現状				
第2週	国際貿易体制と日本(2)	貿易の流れ、貿易取引の種類、品質条件の決定				
第3週	貿易書類と手続(1)	書類の流れ、モノの流れ、カネの流れ				
第4週	貿易書類と手続(2)	信用状				
第5週	貿易書類と手続(3)	船荷証券				
第6週	貿易書類と手続(4)	為替予約				
第7週	貿易書類と手続(5)	送り状、梱包明細書				
第8週	前期中間試験					
第9週	貿易法務(1)	貿易契約の流れ(勧誘、引合い、オファー、承諾)				
第10週	貿易法務(2)	インコタームズ				
第11週	貿易法務(3)	貿易管理制度				
第12週	外国為替と代金決済(1)	為替の種類、外国為替相場と市場				
第13週	外国為替と代金決済(2)	為替の先物予約				
第14週	外国為替と代金決済(3)	D/A手形決済、D/P手形決済				
第15週	外国為替と代金決済(3)	総合復習				
前期末試験	実施する					
後期 第16週	貿易保険とクレーム(1)	貨物海上保険				
第17週	貿易保険とクレーム(2)	貿易保険、PL保険				
第18週	通関業務(1)	輸出入通関の流れ、保税地域と関税の基礎				
第19週	通関業務(2)	輸出申告書				
第20週	通関業務(3)	輸入申告書				
第21週	貿易運送(1)	海上貨物運送、航空貨物運送				
第22週	貿易運送(2)	国際複合一貫輸送				
第23週	後期中間試験					
第24週	輸入ビジネス(1)	マーケティング(1)、ビジネスレターの基本様式(2)				
第25週	輸入ビジネス(2)	マーケティング(2)、ビジネスレターの基本様式(2)				
第26週	輸入ビジネス(3)	通信販売、インターネット活用方法(1)、Proposal & Inquiry				
第27週	輸入ビジネス(4)	通信販売、インターネット活用方法(2)、Offer & Counter offer				
第28週	輸入ビジネス(5)	起業の実例(1)、Acceptance				
第29週	輸入ビジネス(6)	起業の実例(2)、INVOICEから信用状、為替手形の作成				
第30週	輸入ビジネス(7)	総合復習				
後期末試験	実施する					
教科書	『めざせ!貿易実務検定』日本貿易実務検定協会(編)、日本能率協会マネジメントセンター / 『ぜったい儲かる!輸入ビジネス』、中村貞彦著、すばる舎					
参考図書	新輸出入取引ハンドブック、来往哲二著、同文館 / 輸出入外国為替実務事典、宮下忠雄著、日本実業出版者					
評価方法	筆記試験70%、小テスト、課題等30%で評価する。					

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報システム論 Information Systems	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	情報システムの中核をなすオペレーティングシステムとプログラミング言語、ネットワークについて学習する。				
到達目標	UNIXの概要を理解し、重要事項について説明できる。 簡単なコマンドを理解し、実際に操作できる。 プログラムの基本原理を理解し、簡単なプログラムが作成できる。 ネットワークの概要を理解し、簡単な設定ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3)、(B-4)、(D-2)、(D-3)。				
履修上の注意	実際にいろいろなことを試してみること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オペレーティングシステム	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの種類、機能			
第2週	オペレーティングシステム	プログラム内蔵方式、多重プログラミング方式、仮想記憶方式			
第3週	UNIXの概要	UNIXの経緯、ログイン、ログアウト			
第4週	UNIXの基礎	プロセス、ファイルシステム			
第5週	UNIXのコマンド(1)	ファイル操作コマンド			
第6週	UNIXのコマンド(2)	パイプ、リダイレクション			
第7週	前期中間試験				
第8週	シェルスクリプト	概要、実行方法			
第9週	エディタ(1)	viの使用方法			
第10週	エディタ(2)	viのコマンド			
第11週	プログラミングの基礎	アルゴリズム、データ構造			
第12週	アルゴリズムの基礎(1)	変数、順次構造			
第13週	アルゴリズムの基礎(2)	順次構造			
第14週	アルゴリズムの基礎(3)	選択構造			
第15週	アルゴリズムの基礎(4)	選択構造			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	アルゴリズムの基礎(5)	反復構造			
第17週	アルゴリズムの基礎(6)	反復構造			
第18週	アルゴリズムの基礎(7)	反復構造			
第19週	データ構造の基礎(1)	配列			
第20週	データ構造の基礎(2)	配列			
第21週	ファイル処理	ファイル入出力			
第22週	後期中間試験				
第23週	ネットワーク	ネットワークの概要			
第24週	プロトコル	OSI参照モデル			
第25週	インターネット概要	発展経緯			
第26週	TCP/IP	IPアドレス、ルーティング			
第27週	DNS	DNSの仕組み			
第28週	各種サービス	mail、web、ftp、DBMS			
第29週	総合演習	学習内容の確認			
第30週	最新動向	最新の技術動向			
後期期末試験	実施する				
教科書	入門UNIX 改訂新版、羽山博、アスキー				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネスと法律 Business and Law	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	渡部 美紀子
授業概要	本講義では、全経商業簿記2級、および工業簿記1級レベルの内容を学習する。さらに、企業会計原則の一般原則や商法、証券取引法等の会計法規についても学習する。				
到達目標	①株式会社の損益計算書・貸借対照表の作成ができる。 ②製造原価報告書の作成ができる。 ③重要な会計法規を理解できる。 ④簿記能力検定試験2級および1級工業簿記の取得を目指し、検定レベルの問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1).				
履修上の注意	類問を解き、過去問に挑戦し、出来る限り多くの問題を繰り返し解くことにより学習効果が高まる。制限時間内に検定問題が解けるようになるには、積極的な自己学習が必要である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方、初級簿記の復習			
第2週	第2問対策(1)	計算問題A, B, C			
第3週	第2問対策(2)	計算問題D, E			
第4週	第3問対策(1)	特殊仕訳帳A, B			
第5週	第3問対策(2)	特殊仕訳帳C, D			
第6週	第4問対策(1)	伝票会計:伝票の記入, 仕訳集計表の作成			
第7週	第4問対策(2)	伝票会計:入金伝票集計表, 出金伝票集計表			
第8週	復習	これまでの復習			
第9週	第5問対策(1)	損益計算書, 貸借対照表の作成			
第10週	第5問対策(2)	本支店合併財務諸表の作成			
第11週	第1問対策(1)	仕訳問題:現金預金, 手形, 固定資産他			
第12週	第1問対策(2)	仕訳問題:法人税, 純損益の計上, 特殊商品売買他			
第13週	会計法規(1)	企業会計原則			
第14週	会計法規(2)	商法と証券取引法			
第15週	復習	前期のまとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	材料費	材料仕入帳, 材料仕訳帳の記入他			
第17週	労務費	賃金支払帳, 賃金仕訳帳の記入他			
第18週	経費	経費仕訳帳の記入他			
第19週	製造間接費	機械費法			
第20週	部門費計算	直接配賦法, 相互配賦法			
第21週	個別原価計算	仕訳, 転記, 原価計算表の作成			
第22週	総合原価計算(1)	等級別総合原価計算			
第23週	復習	これまでの復習			
第24週	総合原価計算(2)	組別総合原価計算			
第25週	総合原価計算(3)	工程別総合原価計算			
第26週	工場会計	本社, 工場の仕訳			
第27週	標準原価計算	原価差異の計算			
第28週	直接原価計算	全部原価計算と直接原価計算による損益計算書の作成			
第29週	1級工業簿記試験問題演習	模擬問題			
第30週	復習	1年間のまとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	『完全分類 全経簿記, 2級商業簿記』、『全経簿記 改訂ワークブック, 2級商業簿記』『完全分類 全経簿記, 1級工業簿記』『全経簿記 改訂ワークブック, 1級工業簿記』英光社;配付資料				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
社会調査 Research	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	芥川 一則 松本 行真
授業概要	社会調査の企画、サンプリングから結果の分析にいたる全プロセスをについて学び、仮説の検定方法についても学習する。				
到達目標	①現代社会の諸事象について理解できる。 ②適切な情報源から情報の収集ができる。 ③情報の内容を識別・蓄積・整理できる。 ④問題点と解決法を示せる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1). (D-3). (D-4). (D-5).				
履修上の注意	統計に関する数学的な知識が必要なので各自復習しておくこと。また、新聞等で社会調査に関する記事の収集に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方			
第2週	社会調査とは何か	社会調査の条件、種類、めざすもの			
第3週	社会調査の技法	標準的な調査方法、			
第4週	科学としての調査	誤差と偏り			
第5週	調査テーマの設定	問題の設定と焦点の絞り込み			
第6週	ウソとマコトを見わけける方法	量的調査と質的調査			
第7週	総合演習(1)	現地踏査			
第8週	標本設計の理論と方法(1)	無作為抽出とデタラメ抽出			
第9週	信頼できるデータをとる方法	プレテストとメーキング(インチキ)			
第10週	調査結果の正しい分析(1)	クロス集計、トリプル集計			
第11週	調査結果の正しい分析(2)	パターンとスケール			
第12週	調査の積み上げと活用	タイコ持ち調査と趣味調査			
第13週	総合演習(2)	調査報告書の分析			
第14週	総合演習(3)	専門用語確認			
第15週	総合演習(4)	これまでの総復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	調査と理論の結びつき(1)	理論の必要性			
第17週	調査と理論の結びつき(2)	「理論」の「調査」への寄与			
第18週	調査に理論を導入する(1)	理論と調査をどう結びつけるか			
第19週	調査に理論を導入する(2)	既存の理論の応用			
第20週	調査を理論に仕上げる	調査から理論を構成			
第21週	仮説検証法の功罪(1)	仮説検証的アプローチと事実探索的アプローチ			
第22週	仮説検証法の功罪(2)	仮説検証法が妥当な領域とは何か			
第23週	仮説の作り方とその検証法(1)	2変数モデル			
第24週	仮説の作り方とその検証法(2)	多変数モデル(1)			
第25週	仮説の作り方とその検証法(3)	多変数モデル(2)			
第26週	調査票作成の方法と問題点	質問の諸形式とその功罪			
第27週	市場調査、世論調査、ライフスタイル調査の設計	調査票			
第28週	調査機関の選び方	調査依頼の仕方			
第29週	総合演習(5)	専門用語の確認			
第30週	総合演習(6)	これまでの総復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	社会調査ハンドブック、飽戸弘、日本経済新聞社 配布資料				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文献講読 Academic Reading	5	2 (60)	選択	通年 週2時間 C	島村 浩 田代 均
授業概要	過去50年にわたる情報関連分野の中のエポックメイキングな事柄に関する論文等を輪読する。				
到達目標	①コンピュータ誕生の経緯を理解し、説明できる。 ②オペレーティングシステムについて理解し、説明できる。 ③プログラミング言語の特徴を理解し、説明できる。 ④ネットワークについて理解し、説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-5), (B-3), (D-2), (D-3), (F-6).				
履修上の注意	関連する項目をよく調べること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	John von Neumannについて(1)		プログラム内蔵方式		
第2週	John von Neumannについて(2)		EDVAC/ENIAC		
第3週	John von Neumannについて(3)		プログラミングの定義と方法		
第4週	John von Neumannについて(4)		ノイマン型コンピュータ		
第5週	John von Neumannについて(5)		ゲーム理論		
第6週	Alan Curtis Kayについて(1)		ALTO		
第7週	Alan Curtis Kayについて(2)		Dynabook		
第8週	Alan Curtis Kayについて(3)		Smalltalk		
第9週	Alan Curtis Kayについて(4)		meta media		
第10週	Alan Curtis Kayについて(5)		Squeak		
第11週	Tim Berners-Leeについて(1)		CERN, NeXT		
第12週	Tim Berners-Leeについて(2)		WWW, HTML		
第13週	Tim Berners-Leeについて(3)		W3C		
第14週	Tim Berners-Leeについて(4)		Semantic Web		
第15週	Tim Berners-Leeについて(5)		XML		
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	UNIXについて(1)		開発経緯		
第17週	UNIXについて(2)		特徴、種類		
第18週	UNIXについて(3)		C言語		
第19週	UNIXについて(4)		Linux		
第20週	UNIXについて(5)		Open source software		
第21週	Internetについて(1)		発展経緯		
第22週	Internetについて(2)		基盤技術		
第23週	Internetについて(3)		サービスの種類		
第24週	Internetについて(4)		問題点		
第25週	Internetについて(5)		最新技術		
第26週	プログラミング言語について(1)		FORTRAN, COBOL, PL/I, BASIC		
第27週	プログラミング言語について(2)		PASCAL, ADA, APL		
第28週	プログラミング言語について(3)		Perl, LISP		
第29週	プログラミング言語について(4)		Java, Java script		
第30週	プログラミング言語について(5)		PHP, Ruby		
後期期末試験	実施しない				
教科書	輪講用配布資料(プリント)				
参考図書					
評価方法	課題70%およびレポート30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅲ Second Foreign Language III	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級文法全体を習得し、ロシア語の内容を正しく読み取る力を養う。				
到達目標	①名詞、形容詞の格変化の用法(初級レベル)を習得する。 ②動詞及び前置詞の格支配の用法(中級レベル)を習得する。 ③重文、複文の基礎を習得する。 ④多読による語彙力アップを目指す。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	言うべきことを単語・句・文のレベルで型に分類して覚えておき、必要に応じてすぐに口をつけてできるように意識的に訓練すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	第9課(1) 第9課(2) 第9課(3) 第10課(1) 第10課(2) 第11課(1) 前期中間試験	数量生格、сколькoの用法 前置詞「y+生格」の用法、時間の表現 動詞стоитьの用法、形容詞の対格の用法 動詞мочьの用法 動詞идтиの用法 名詞の格変化・与格の用法			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	第11課(2) 第12課(1) 第12課(2) 第13課(1) 第13課(2) 第14課(1) 第14課(2) 総合復習 実施する 第15課(1) 第15課(2) 第15課(3) 第16課(1) 第16課(2) 第17課(1) 後期中間試験 第17課(2) 第18課(1) 第18課(2) 第18課(3) 第19課(1) 第19課(2) 第20課(1) 第20課(2) 実施する	形容詞の格変化・与格の用法 чтобыの用法、形容詞の短語尾 仮定法(1) 活動体／不活動体 形容詞の生格と与格の用法 前置詞「o+前置格」の用法 無人称文(1) 総合復習 前置詞「c+造格」の用法、名詞・形容詞の造格形 быть+造格、造格支配の動詞、道具・手段を表す造格 仮定法(2) 前置詞「без+生格」の用法 関係代名詞(1) 形容詞・副詞の比較級 形容詞・副詞の最上級 様々な前置詞と核支配 不定人称文 述語副詞 関係代名詞(2) 無人称文(2) 総合復習 総合復習			
教科書	『新ロシア語教程』、狩野亨他著、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』、木村彰一他編著、博友社 / プリント配布				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テスト及び課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教官
第2外国語Ⅲ Second Foreign Language III	5	2 (60)	選択	通年 週2時間 B	菌田 美智子
授業概要	フランス語の初級文法全体を習得し、フランス語の内容を正しく読み取る力を養う。 L・Lを利用し、さらに多くの語彙、表現を正しい発音、リズムで習得する。				
到達目標	①フランス語の初級文法(中級レベル)を習得する。 ②フランス語の基礎的な単語(中級レベル)を習得する。 ③フランス語の基礎的な語彙イディオム(中級レベル)を習得する。 ④フランス語の基礎的な会話(中級レベル)を習得する。				
教育目標との対応	福島高専との教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	いろいろな場面、場所で適した会話がすぐに出るように訓練する。仏検4級レベルを目指す。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unite 2 - lecon 1	"La maison de campagne"の内容理解			
第2週	"	住居・家具・位置に関する語彙・表現			
第3週	"	動詞活用: vendre, acheter, louer, voir			
第4週	"	位置を表す副詞			
第5週	"	指示形容詞の用法			
第6週	"	序数・序数形容詞の用法			
第7週	Unite 2 - lecon 2	"Repas a Broussac"の内容理解			
第8週	前期中間試験				
第9週	"	食材・食事の語彙、レストランでの会話表現			
第10週	"	動詞の活用: choisir, prendre, manger, boire			
第11週	"	部分冠詞の用法、un peu de , beaucoup de の表現			
第12週	"	人称代名詞強勢形の用法 動詞活用: se lever, s'habiller... etc			
第13週	"	Moi oui. Moi non. Moi non plus. Moi si. の答え方			
第14週	Unite2 - lecon 3	"Bruits et Disparitions"の内容理解			
第15週	"	一日の行動表現、代名動詞の用法			
前期期末試験	実施する				
第16週	Unite 2 - lecon 3	動詞活用: perdre, descendre, monter;			
第17週	"	所有形容詞(単数)の用法			
第18週	"	personne・rien, encore・un autre の表現			
第19週	Unite 2 - lecon4	"Déguisements"の内容理解			
第20週	"	洋服・色・材質の語彙、買い物をするときの会話表現			
第21週	"	重さ・寸法・値段の語彙、動詞活用: mettre, essayer, payer ... etc			
第22週	Unite 2 - lecon 4	所有形容詞(複数)の用法			
第23週	後期中間試験				
第24週	Unite 2 - lecon 4	"tout"の形容詞・代名詞の用法 .			
第25週	Unite 2 - lecon 5	"Mardi Gras"の内容理解			
第26週	"	状態を表す表現、代名動詞の命令文			
第27週	"	料理レシピの語彙・表現、祝い・賞賛の表現			
第28週	"	義務・禁止の表現 Il faut...; devoir;			
第29週	"	他動詞と再帰的代名動詞の用法			
第30週	Bilan	Unite2 の総まとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	Le Nouveau Sans Frontieres I, CLE / ディコ仏和辞典、中條屋進他(編)、白水社 / プリント教材				
参考図書	仏検対策4級問題集、白水社				
評価方法	定期試験70%、課題及び小テスト30%で評価する。				

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語Ⅱ Business English Ⅱ		5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松本 行真
授業概要	国際ビジネスに欠かすことのできない各種英文ビジネス文書の書き方について基礎から実践・応用まで幅広く学習する。					
到達目標	①英文レターの構成法及び定型表現を習得する。 ②貿易用通信文の基礎を習得する。 ③ビジネスソーシャルレターにおけるPlain Englishを習得する。 ④ビジネス英語における文法及び語法(特に冠詞と前置詞)を習得する。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).					
履修上の注意	事前に資料を配布するので、辞書を使って予習してから授業に臨むこと。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週	ビジネス文書の概要1	文書による情報伝達の利点、ビジネス文書の種類と区分				
第2週	ビジネス文書の概要2	日本語ビジネス文書の構成要素				
第3週	フォーマットと構成要素1	フォーマット、mailing notation inside address 等、個々の役割				
第4週	フォーマットと構成要素2	particular address, opening salutation body 等、個々の役割				
第5週	ビジネス文書本文の構成法1	ビジネス文書の3部構成の原則と循環法モデル				
第6週	ビジネス文書本文の構成法2	書き出しの定型表現				
第7週	ビジネス文書本文の構成法3	結びの定型表現				
第8週	前期中間試験					
第9週	ケーススタディ1	問い合わせ・資料請求とその返信				
第10週	ケーススタディ2	見積もり請求とその返信				
第11週	ケーススタディ3	値引き交渉				
第12週	ケーススタディ4	発注と受注				
第13週	ケーススタディ5	支払いと支払いの手続き				
第14週	ケーススタディ6	支払い督促				
第15週	ケーススタディ7	総合復習				
前期期末試験	実施する					
後期 第16週	ケーススタディ8	苦情とその処理				
第17週	ケーススタディ9	合意の確認				
第18週	ケーススタディ10	重要書類の送付				
第19週	ソーシャルレター1	訪問の通知、アポイントメント、紹介状				
第20週	ソーシャルレター2	招待状、依頼状、礼状				
第21週	ソーシャルレター3	挨拶状、お祝い状、推薦状				
第22週	ソーシャルレター4	お悔やみ状、慶事の挨拶状、礼状				
第23週	後期中間試験					
第24週	Plain English 1	formal なトーンと informal なトーンの使い分け				
第25週	Plain English 2	write as you talk の技法				
第26週	Plain English 3	Plain English による書き換え練習				
第27週	文法と語法1	不定冠詞の一般的用法、名詞の可算・不可算性の転換				
第28週	文法と語法2	種別冠詞、定冠詞の一般的用法				
第29週	文法と語法3	主要前置詞の機能・役割別分類とその用例				
第30週	文法と語法4	総合復習				
後期期末試験	実施する					
教科書	配布資料					
参考図書	『ライティングマラソン1-4』染谷泰正著、アルク 『貿易実務検定B・C急貿易実務英語オフィシャルテキスト』日本貿易実務検定協会編、三修社					
評価方法	定期試験70%、小テスト・課題等30%で評価する。					

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅳ Second Foreign Language IV		5	2 (60)	選択	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	「第2外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」でのロシア語の知識を活用し、ロシア語圏が抱える諸問題および日露中韓関係(環日本海関係)について理解を深める。					
到達目標	①第2外国語Ⅲと連携して、日常会話を習得する。 ②ロシアの文化、歴史の知識を得る。 ③ロシアの政治・経済の現状を把握する。 ④日露関係の歴史と現状を把握する。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5).					
履修上の注意	現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週	第9課(1)	時間の表現(1)/笑い話、小咄、アネドト(1)				
第2週	第9課(2)	時間の表現(2)/笑い話、小咄、アネドト(2)				
第3週	第9課(3)	値段の表現(1)/少数民族の生活(1)				
第4週	第10課(1)	値段の表現(2)/少数民族の生活(2)				
第5週	第10課(2)	数量の表現(1)/自然破壊(1)				
第6週	第11課(1)	数量の表現(2)/自然破壊(2)				
第7週	第11課(2)	お礼とお詫びの表現(1)/経済政策(1)				
第8週	第12課(1)	お礼とお詫びの表現(2)/経済政策(2)				
第9週	第12課(2)	勧めと誘いの表現(1)/ロシアンマフィア(1)				
第10週	第12課(3)	勧めと誘いの表現(2)/ロシアンマフィア(2)				
第11週	第13課(1)	興味と関心の表現(1)/外交政策(1)				
第12週	第13課(2)	興味と関心の表現(2)/外交政策(2)				
第13週	第14課(1)	可能の表現(1)/軍事産業(1)				
第14週	第14課(2)	可能の表現(2)/軍事産業(2)				
第15週	第14課(3)	可能の表現(3)/軍事産業(3)				
前期期末試験	実施しない					
後期 第16週	第15課(1)	必要の表現(1)/日露交流史(江戸期1)				
第17週	第15課(2)	必要の表現(2)/日露交流史(江戸期2)				
第18週	第15課(3)	義務の表現(1)/日露交流史(江戸期3)				
第19週	第16課(1)	義務の表現(2)/日露交流史(江戸期4)				
第20週	第16課(2)	難易の表現(1)/日露交流史(明治・大正期1)				
第21週	第17課(1)	難易の表現(2)/日露交流史(明治・大正期2)				
第22週	第17課(2)	許可の表現(1)/日露交流史(昭和・平成期1)				
第23週	第18課(1)	許可の表現(2)/日露交流史(昭和・平成期2)				
第24週	第18課(2)	禁止の表現(1)/日露交流史(昭和・平成期3)				
第25週	第18課(3)	禁止の表現(2)/日露交流史(昭和・平成期4)				
第26週	第19課(1)	依頼の表現(1)/環日本海の貿易の展望(1)				
第27週	第19課(2)	依頼の表現(2)/環日本海の貿易の展望(2)				
第28週	第20課(1)	感嘆の表現(1)/環日本海の貿易の展望(3)				
第29週	第20課(2)	感嘆の表現(2)/環日本海の貿易の展望(4)				
第30週	第20課(3)	感嘆の表現(3)/環日本海の貿易の展望(5)				
後期期末試験	実施しない					
教科書	『新ロシア語教程』狩野亨他、ナウカ / 『博友社ロシア語辞典』木村彰一他、博友社 / 『魔女の1ダース』、米原万里著、新潮社 / プリント配布					
参考図書	『2時間でわかる図解ロシアのしくみ』小林和男著、中経出版					
評価方法	リスニング及び口頭試験30%、豆テスト及び課題20%、レポート50%で評価する。					

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教官
第2外国語Ⅳ Second Foreign Language Ⅳ	5	2 (60)	選択	通年 週2時間 C	菌田 美智子
授業概要	「第2外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」でのフランス語の知識を活用し、さらなる発展会話を習得する。 フランス語圏の現代事情・諸問題をビデオ・インターネットを通して学ぶ。				
到達目標	①「第2外国語Ⅲ」と連携して、日常会話の展開を習得する。 ②フランス語圏の文化、歴史について正しい理解を得る。 ③フランス語圏の政治、経済について正しい理解を得る。 ④日仏関係史についての正しい理解を得る。				
教育目標との対応	福島高専との教育目標との対応:(F-5).				
履修上の注意	基本会話から展開会話ができるよう実演しながら訓練する。 現代フランス・フランス語圏について幅広い関心を持ち情報収集に努める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Conversation ① “Logement”	住まい・交通手段に関する発展会話 ／ フランスの都市(就職・失業)			
第2週	”	”			
第3週	”	”			
第4週	”	”			
第5週	Conversation ②	休みの計画・近接未来での会話			
第6週	“ Qu’ est- ce que vous allez faire ~ ? ”	”			
第7週	”	”			
第8週	”	”			
第9週	Conversation a deux et les critiques	発展会話実演・批評			
第10週	HP リサーチ	フランス語圏の文化、歴史、政治、経済、教育など から現代事情・問題をリサーチ			
第11週	”	”			
第12週	”	”			
第13週	”	”			
第14週	プレゼンテーション	レポート作成(日本語)、批評			
第15週	フランス事情	ビデオ媒体による批評、レポート作成			
前期期末試験	実施しない				
第16週	Conversation ③	複合過去での会話 / フランスの文学・生活			
第17週	“ Qu’ est- ce que vous avez fait ~ ? ”	”			
第18週	”	”			
第19週	”	”			
第20週	HP グループリサーチ	フランス語圏の都市を選び現代事情・諸問題、日本 との関係をリサーチ			
第21週	”	”			
第22週	”	”			
第23週	”	”			
第24週	La reunion de Noel	フランスのクリスマス / 生活・音楽・宗教			
第25週	プレゼンテーション	レポート作成(日本語、フランス語)、批評			
第26週	Conversation ④	「将来何をしたいか？」自分を語る発展会話			
第27週	“ Que’ est- ce que vous voulez faire dans ~ ? ”	／ フランス・海外事情			
第28週	”	”			
第29週	”	”			
第30週	Conversation まとめ	スピーチ実演			
後期期末試験	実施しない				
教科書	Le Nouveau Sans Frontieres 1, CLE / デイコ仏和辞典、中條屋進他(編)、白水社 La conversation dans la classe, ALMA / プリント教材				
参考図書					
評価方法	レポート40%、リスニング・会話文小テスト30%、口頭試験30%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報特論Ⅱ Information Seminar Ⅱ	5	1 (30)	選択	後期 週2時間 C	中尾 剛
授業概要	近年、インターネットにブログやショッピングサイトが多く見られるようになってきた。これらはサーバサイドプログラミング技術とデータベース技術によって構築されている。本授業では、データベースをWeb上で扱う技術の基礎について学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PHPを用いたサーバサイドプログラミングの基礎を修得する。 2. MySQLを用いてデータベースの基礎を修得する。 3. PHPとMySQLによりデータベースを用いたWebサイトを制作する。 				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (C-1). JABEE基準1(1)との対応:(c).				
履修上の注意	実際に多くのプログラミングを行うことが重要である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	HTML基礎 PHPの基礎(1) PHPの基礎(2) PHPの基礎(3) PHPの基礎(4) PHPの基礎(5) PHPの基礎(6) MySQLの基礎(1) MySQLの基礎(2) MySQLの基礎(3) MySQLの利用(1) MySQLの利用(2) Webサイト制作(1) Webサイト制作(2) Webサイト制作(3) 実施しない	HTMLの基本構成 基本構成と文法、演算子 出力と順次処理 分岐処理と繰返し処理 標準関数とユーザ定義関数 フォームとセッション フォームを用いたWebサイト制作 データベースの基礎 MySQLの基本操作とSQL データベースの設計とAdminツール データベース接続関数1 データベース接続関数2 PHPとMySQLによるWebサイト制作 PHPとMySQLによるWebサイト制作 PHPとMySQLによるWebサイト制作			
教科書	基礎PHP、WINGSプロジェクト著、山田祥寛監修、インプレス				
参考図書					
評価方法	授業中に提示する課題100%で評価する。				